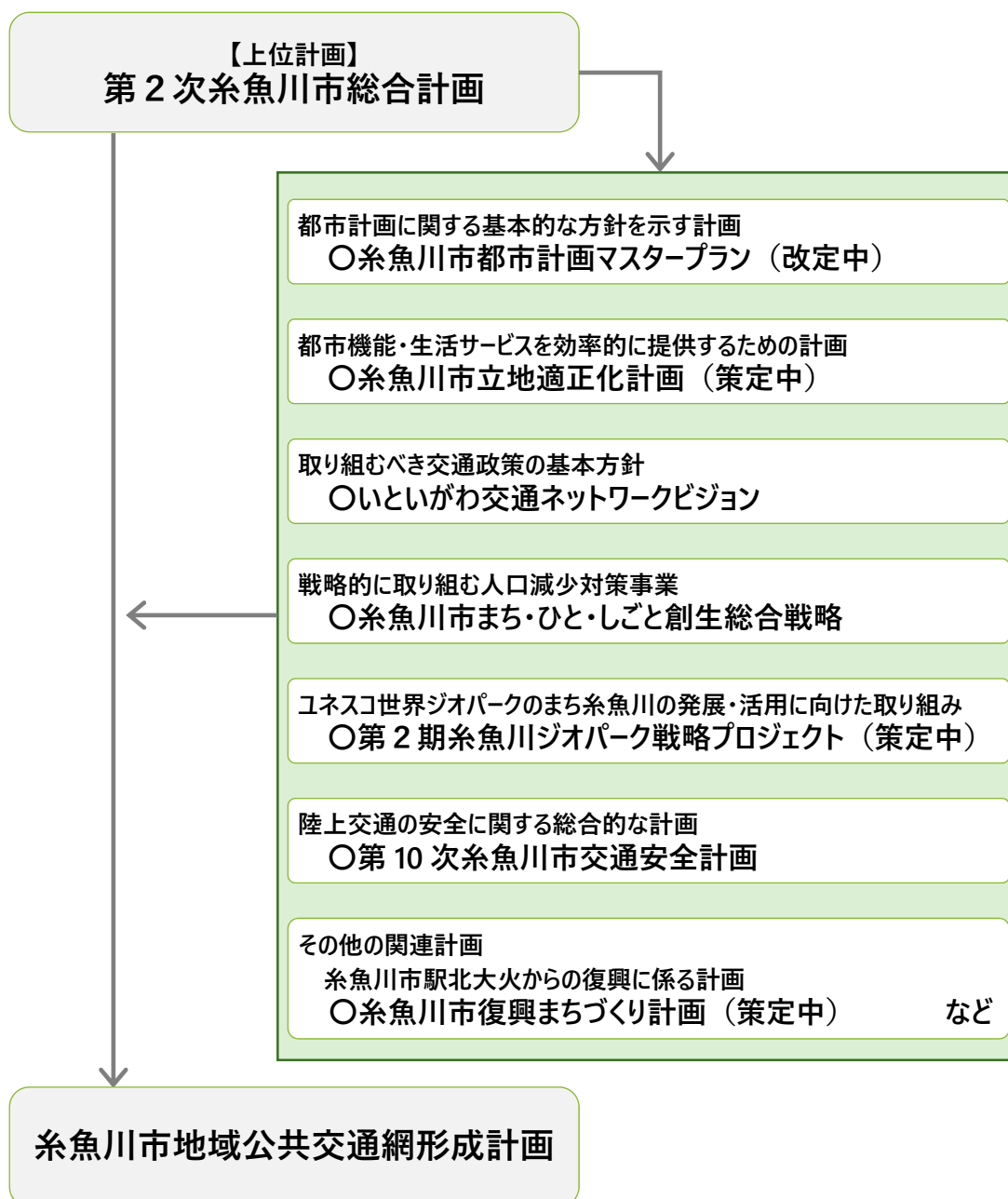


## 第2章 糸魚川市の現状分析

### 1. 上位・関連計画

糸魚川市地域公共交通網形成計画は、当市のまちづくりを進めていくための最上位計画であり、本市の各種計画や施策の基本となる「第2次糸魚川市総合計画」に基づくもので、目指す都市像「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」の実現にむけ、地域公共交通に関する基本計画（マスタープラン）として策定します。

また、地域公共交通とかかわりの強い計画と連携・整合を図り、策定します。



## ① 第2次糸魚川市総合計画（平成28年12月策定）

計画期間：平成29年度～平成35年度（7年間）

将来都市像「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」

## 基本計画

## ●第1章 子育て支援・教育分野

子育て支援充実のまち いといがわ

郷土愛にあふれ 夢をかなえるひとづくり

- ・ 0歳から18歳までの一貫した子育てと教育の推進
- ・ 結婚を希望する男女への婚活支援
- ・ 生涯学習の充実
- ・ 文化の振興

## ●第2章 健康福祉分野

安らぎ支えあいのまち いといがわ

健康で元気なひとづくり

- ・ 健康づくりの推進
- ・ 安心できる医療体制の充実
- ・ 地域で支えあう福祉の推進
- ・ 高齢者への支援

## ●第3章 産業分野

資源循環で潤うまち いといがわ

にぎわいと活力のあるまちづくり

- ・ 若者が求める就業環境づくり
- ・ 活力ある産業の振興
- ・ 交流人口の拡大と観光振興

## ●第4章 土地利用・公共インフラ部門

生活基盤が整ったまち いといがわみんなが住みたいまちづくり

- ・ 暮らしやすい生活圏の形成
  - 機能的・効率的な生活圏の形成
    - ①機能的・効率的な生活圏形成の推進
    - ②都市計画マスタープランの見直し
    - ③調和のとれた土地利用の推進
- ・ 地域公共交通の確保
  - 地域公共交通網の整備・利活用
    - ①地域公共交通網形成計画の策定
    - ②鉄道の利便性の向上と利用促進
    - ③バス等の利便性・効率性の向上と利用促進

- ・ 交通ネットワークの整備
- ・ 快適な住環境の整備

## ●第5章 環境・防災・防犯分野

環境保護と防災対策の充実したまち いといがわ

人と自然にやさしいまちづくり

## ●第6章 地域づくり・市民活動・移住定住分野

市民活動が活発なまち いといがわ

地域が輝くまちづくり

## ② 糸魚川市都市計画マスタープラン（現在改定中）

計画期間：平成19年度～（概ね20年後を見通すもの）

都市づくりのテーマ：自然・交流・元気・明日(みらい)に向けて輝くまち

### 都市づくりの目標

- 活力ある産業を創造するまちづくり
- 人にやさしく温かみのあるまちづくり
- 原風景を大切にすまちづくり

### 都市づくりを実現するための分野別の基本方針

#### ●道路・交通体系整備

##### ・公共交通体系

##### 《鉄道》

- ・北陸新幹線、JR北陸本線（並行在来線）、JR大糸線及びバス交通については、本市の公共交通体系として位置づけ、コンパクトなまちづくりにあって円滑な移動に資する交通手段として利用促進を図ります。

##### 《基幹バス、循環バス》

- ・バス交通空白地域の解消やJR北陸本線（並行在来線）及びJR大糸線の各駅における交通結節機能を強化するための施設整備を推進する他、必要に応じてバス停の配置を含めたバス交通網の再編を進めます。
- ・主要なバス停周辺においては、パーク・アンド・バスライド、サイクル・アンド・バスライド駐車場の整備について検討します。

## ③ 糸魚川市立地適正化計画（現在策定中）

## ④ といがわ交通ネットワークビジョン（平成19年3月策定・平成25年3月見直し）

計画期間：平成19年度～平成38年度（20年間）

※世界ジオパーク認定及び北陸新幹線開業に伴う見直しによるもの

**目標と将来像、基本方針**

- ・ **目標 「ひと」・「もの」の交流促進による「産業の活性化」と「安心な暮らしの向上」**
- ・ **将来像**
  - 広域都市間から市内地区間まで、「ひと」・「もの」の交流が盛んになり、産業の活性化に資する交通ネットワーク
  - 商業、観光面において、糸魚川市の魅力を活かせる交通ネットワーク
  - 「ひと」・「もの」が移動しやすく、安心（安全で便利で快適）な暮らしができる交通ネットワーク
- ・ **基本方針**
  - 十字型経済圏形成の拠点として、日本海国土軸\*1 及び都市間連携軸を活かした、交流促進による産業の活性化
  - 都市内連携軸を活かした、効率的で便利なまちづくり
    - ・ 既成市街地と各集落及び集落間の連携強化による地域の一体化と、効率的な都市活動の実現を図るため、都市内連携軸の整備を進める。
    - ・ 安定した物流による経済活動の活発化を図るため、物流ネットワークを構築する。
    - ・ 公共施設等の利便性向上を図るため、施設へのアクセスを強化する。
  - 世界ジオパークのまちとして、都市間及び都市内連携軸の強化による交流人口の拡大
    - ・ 来訪者の利便性向上を図るため、各地に点在する観光地やジオサイトへのアクセスを強化する。
    - ・ 市外との交流人口拡大を図るため、都市間連携軸の強化や公共交通機関の利便性向上を図る。
    - ・ 来訪者の満足度を高めるため、おもてなしの心を重視した情報発信及び案内標識等の整備を進める。
  - 誰もが快適・安全に利用できる、道路と公共交通網の整備
    - ・ 安全で便利で快適な日常生活の実現を図るため、バリアフリーに配慮した良好な生活道路網を整備する。
    - ・ 誰もが快適で安全に移動ができるまちづくりを図るため、利用しやすい便利な公共交通網を確保する。
    - ・ 緊急時及び災害時における交通の確保を図るため、災害に強い交通網を構築する。
    - ・ 市民生活を支援し地区間相互の連携強化を図るため、公共交通網を整備する。
    - ・ 安全で円滑な交通の確保を図るため、情報の提供と安全対策を充実させるとともに、道路施設においては老朽化対策等の適切な維持管理を進める。

⑤ 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月策定・平成28年4月1日改訂）

計画期間：平成27年度～平成31年度（5年間）

**基本目標**

- I（か）稼げる資源循環のまちづくり
- II（ち）地域を担う人財が集うまちづくり
- III（ゆ）夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくり
- IV（く）暮らしやすさで安心・元気なまちづくり

**基本施策**

- ・安心して過ごせる地域づくり
- ・持続可能なまちづくりの推進

**個別施策**

- ・路線バスやコミュニティバス、鉄道などの交通手段を組み合わせ、誰もが利用しやすく持続可能な公共交通を確保します。

⑥ 第2期糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト

（※現在策定中）

基本理念：「世界ジオパークのまち糸魚川」のオンリーワンをみんなで輝かせよう  
基本方針：「保護・保全」、「教育・防災」、「地域振興」、「事業推進」

⑦ 第10次糸魚川市交通安全計画（※現在、策定中）

計画期間：平成29年度～平成32年度（4年間）

目 標：平成32年までに年間の交通事故死者数をゼロとすることを目指す。

分野別施策：

●道路交通環境の整備

- ・公共交通機関の利用促進

公共交通機関の利便性向上と利用促進

⑧ 糸魚川市復興まちづくり計画（※現在、策定中）

基本的な考え方：

- 安心して暮らせるまちづくり
- 住民の生活再建と事業者の事業再開への支援
- 商業の振興
- 地域コミュニティの再生
- 早期の復興に向けた取組

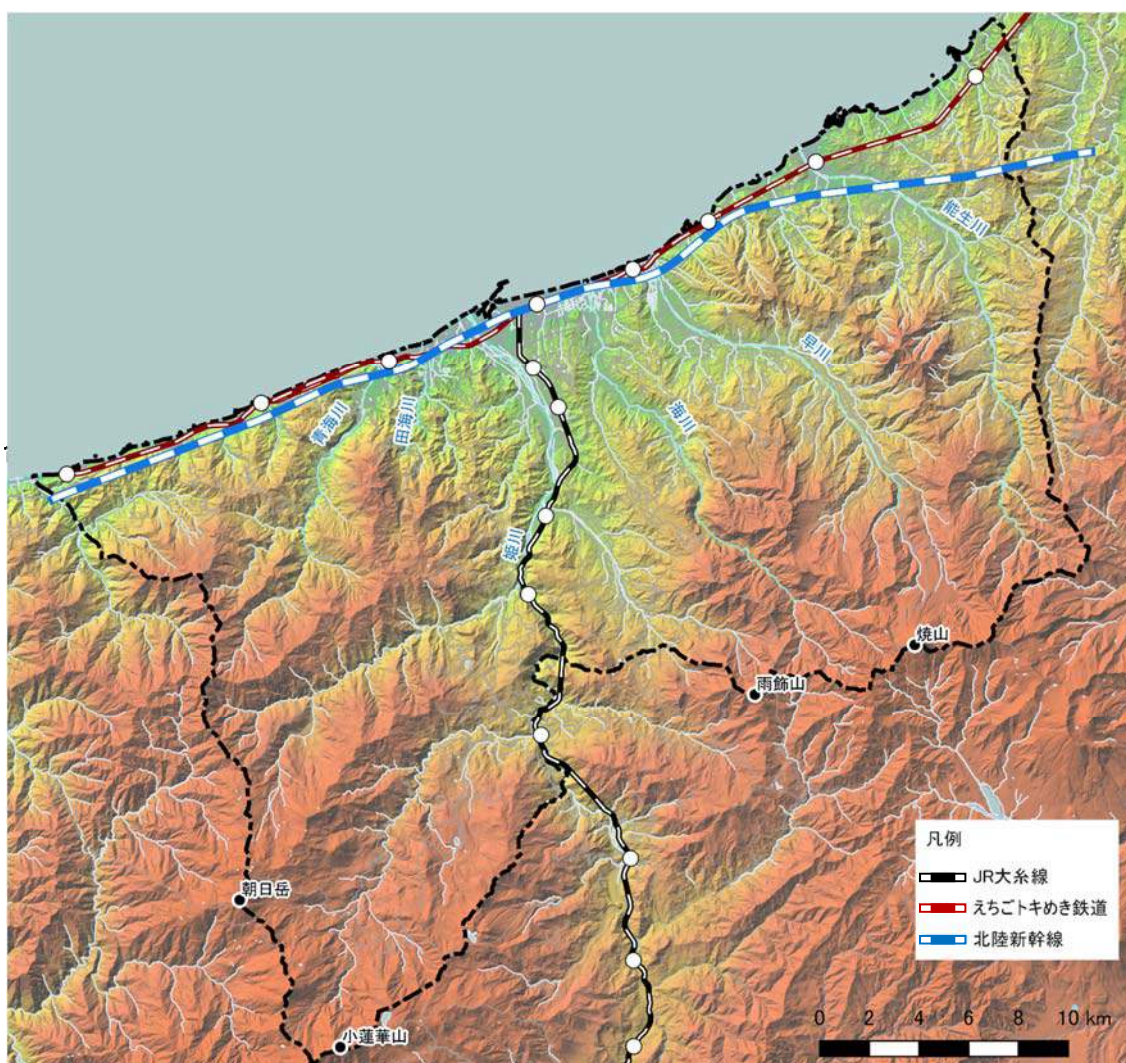
## 2. 市の概況

### (1) 糸魚川市の成り立ち

- ・糸魚川市は平成17年3月19日に旧糸魚川市、旧能生町、旧青海町が合併し誕生した。
- ・現在糸魚川市は、過疎・辺地・特別豪雪地帯等に指定されている。

### (2) 糸魚川市の地勢

- ・糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、北は日本海に面し、東は上越市、西は富山県朝日町、南は長野県小谷村と接している。
- ・海拔0m～3000m級の山々を擁するユネスコ世界ジオパークのまちであり、地形の変化に富んでいる。
- ・面積は、746.24km<sup>2</sup>と広大で新潟県総面積の5.9%を占めている。土地利用は、市域の約94.3%が山林等であり、宅地は市域の約1.4%程度である。
- ・南は焼山、雨飾山等の頸城連峰や朝日岳、小蓮華山等の北アルプスが連なる。谷々には、能生川、早川、海川、姫川、田海川、青海川及びその支流が流れている。流域や河口部に集落や市街地が形成されている。



## (3) 人口

## ① 人口と世帯数

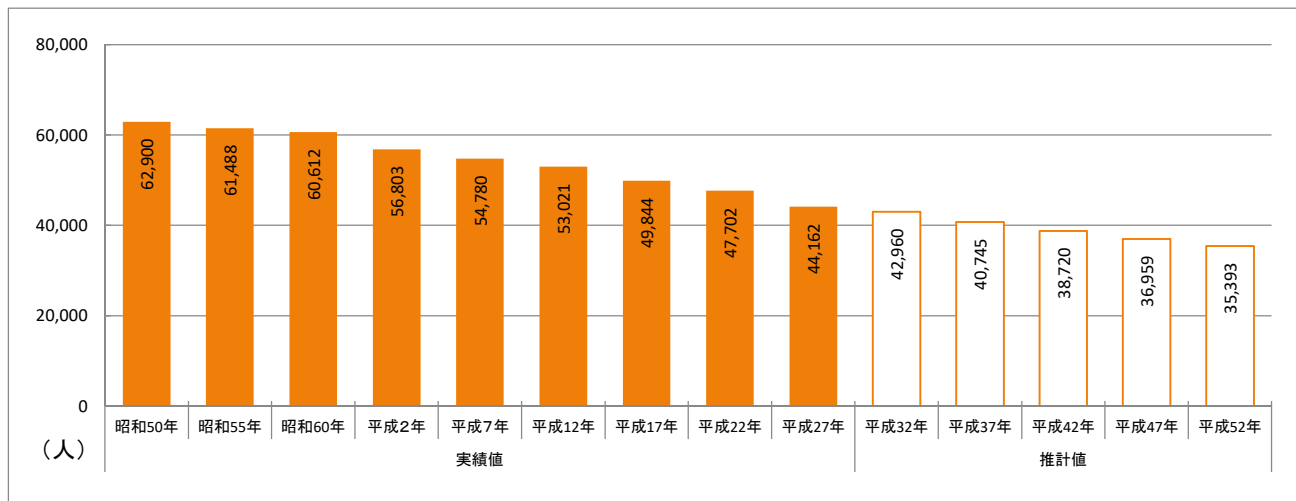
- ・市内は旧市町単位で能生地域、糸魚川地域、青海地域に区分されている。
- ・平成27年国勢調査速報値による人口は、市全体で44,162人、能生地域8,542人、糸魚川地域27,288人、青海地域8,332人である。糸魚川市の新潟県全体に占める人口の割合は1.92%である。
- ・人口密度は能生地域56.8人/km<sup>2</sup>、糸魚川地域58.5人/km<sup>2</sup>、青海地域64.5人/km<sup>2</sup>である。市全体の人口密度は59.2人/km<sup>2</sup>であり、県全体の人口密度183.1人/km<sup>2</sup>よりも低い。
- ・前回調査(平成22年)との増減をみると、すべての地域で人口が減少している。世帯数についても同様に新潟県全体では増加しているが、糸魚川市内すべての地域で減少している。
- ・地域別では3地域の中で最も人口が多いのは糸魚川地域である。
- ・前回の国勢調査と比較して、人口減少率が最も大きいのは能生地区で8.32%である。
- ・住民基本台帳による平成28年4月1日の糸魚川市の総人口は、能生地域8,724人、糸魚川地域27,577人、青海地域8,468人、合計44,769人である。65歳以上の高齢者は、能生地域38.7%、糸魚川地域36.1%、青海地域38.2%、市全体では37.0%であり、高齢化が進んでいる。

表：糸魚川市人口  
(出典：平成27年国勢調査)

地域名	総数 (人)	男 (人)	女 (人)	世帯数 (世帯)	世帯当たり 人員 (人/世帯)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 密度 (人/km <sup>2</sup> )	平成22年～平成27年 人口増減		人口 構成比 (県 対) %
								人口 (上段：人) (下段：%)	世帯 (上段：世帯) (下段：%)	
県合計	2,304,264	1,115,413	1,188,851	848,150	2.72	12,584.1	183.1	-70,186 -2.96	9,111 1.09	100.0
市合計	44,162	21,538	22,624	16,699	2.64	746.24	59.2	-3,540 -7.42	-734 -4.21	1.92%
能生	8,542	4,188	4,354	3,002	2.85	150.49	56.8	-775 -8.32	-91 -2.94	0.37%
糸魚川	27,288	13,343	13,945	10,485	2.60	466.62	58.5	-2,083 -7.09	-552 -5.00	1.18%
青海	8,332	4,007	4,325	3,212	2.59	129.13	64.5	-682 -7.57	-91 -2.76	0.36%

## ② 人口推移

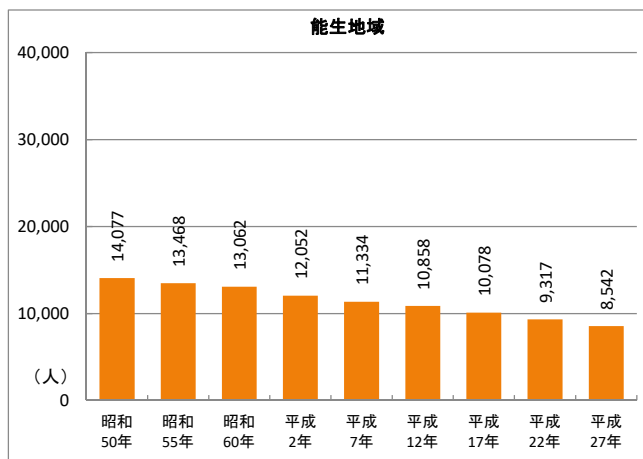
- ・市の人口は昭和50年以降減少しており、平成27年国勢調査では44,162人となっている。
- ・人口ビジョンにおける将来人口では平成52年に35,393人となり、平成27年から平成52年までの25年で19.9%の減少と推計されている。



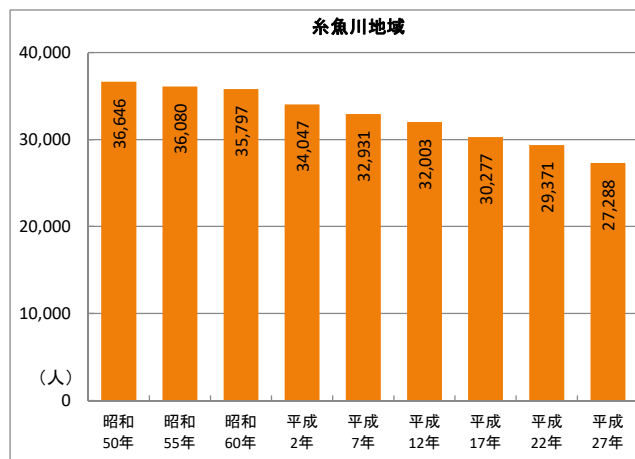
図：糸魚川市人口の推移及び将来推計  
(出典：実績値 国勢調査 / 推計値 糸魚川市人口ビジョン)

## ③ 地域別人口

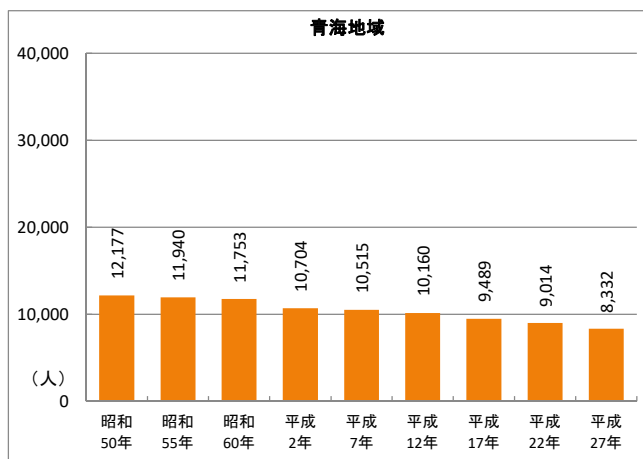
- ・3地域別の人口をみると、すべての地域で人口が減少傾向となっている。



図：能生地域人口実績  
(出典：国勢調査)



図：糸魚川地域人口実績  
(出典：国勢調査)

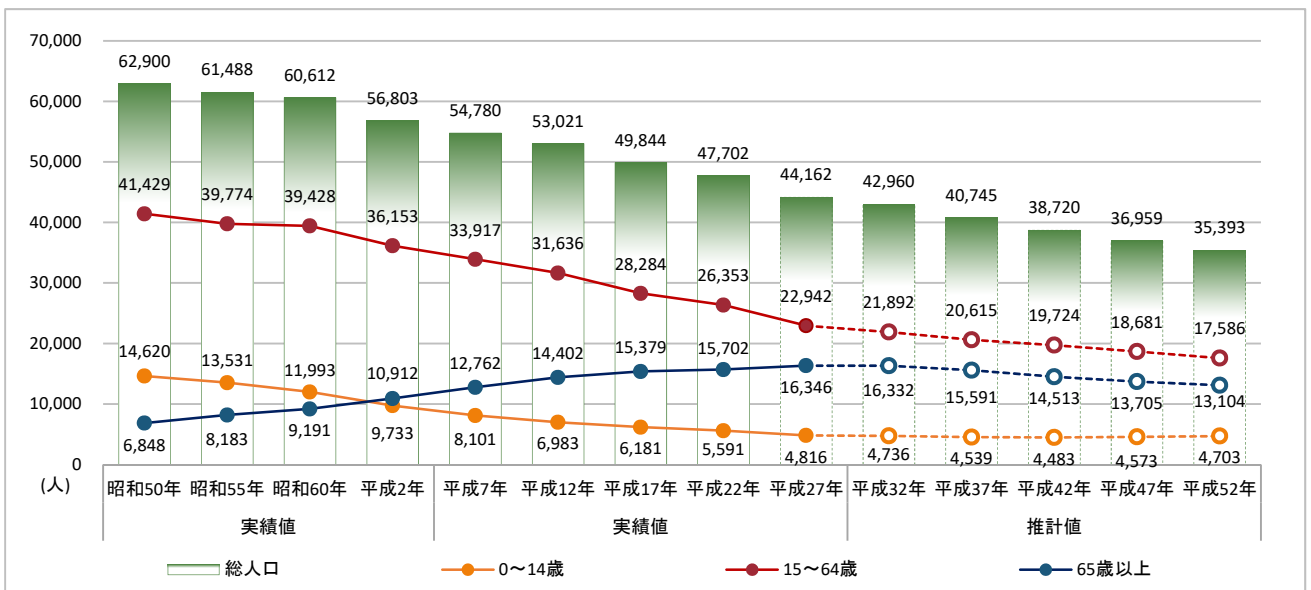


図：青海地域人口実績  
(出典：国勢調査)

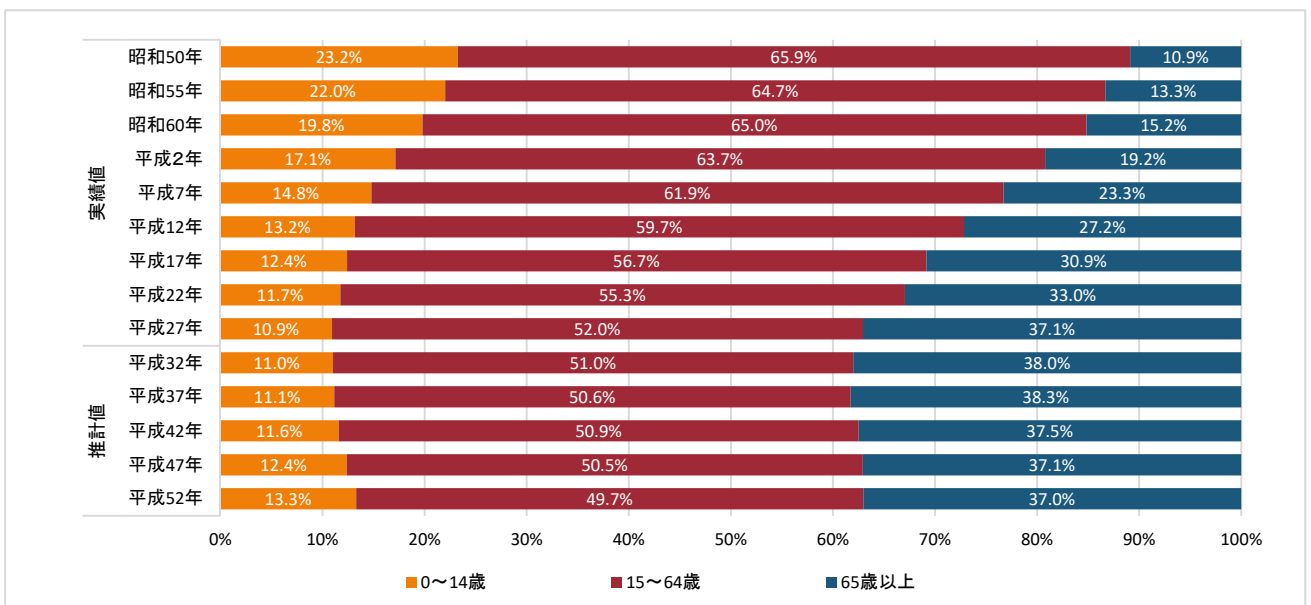


④ 年齢3区分別の人口推移と人口構成

- ・市全体では、0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は継続して減少傾向にある。65歳以上の老年人口は平成32年の16,332人を増加のピークとして、以降平成52年までに13,104人に減少すると推計されている。
- ・年少人口は平成2年から老年人口よりも少なくなり平成42年に減少にピークを迎える。平成47年以降から増加に転じる推計となっている。
- ・平成52年の時点では総人口の37.0%が老年人口になる見込みである。
- ・市内の人口構成比をみると、65歳以上の高齢化率は平成7年より増加し平成17年に30%を超えている。高齢化率は、平成37年に総人口の38.3%に達した以降、減少する推計である。



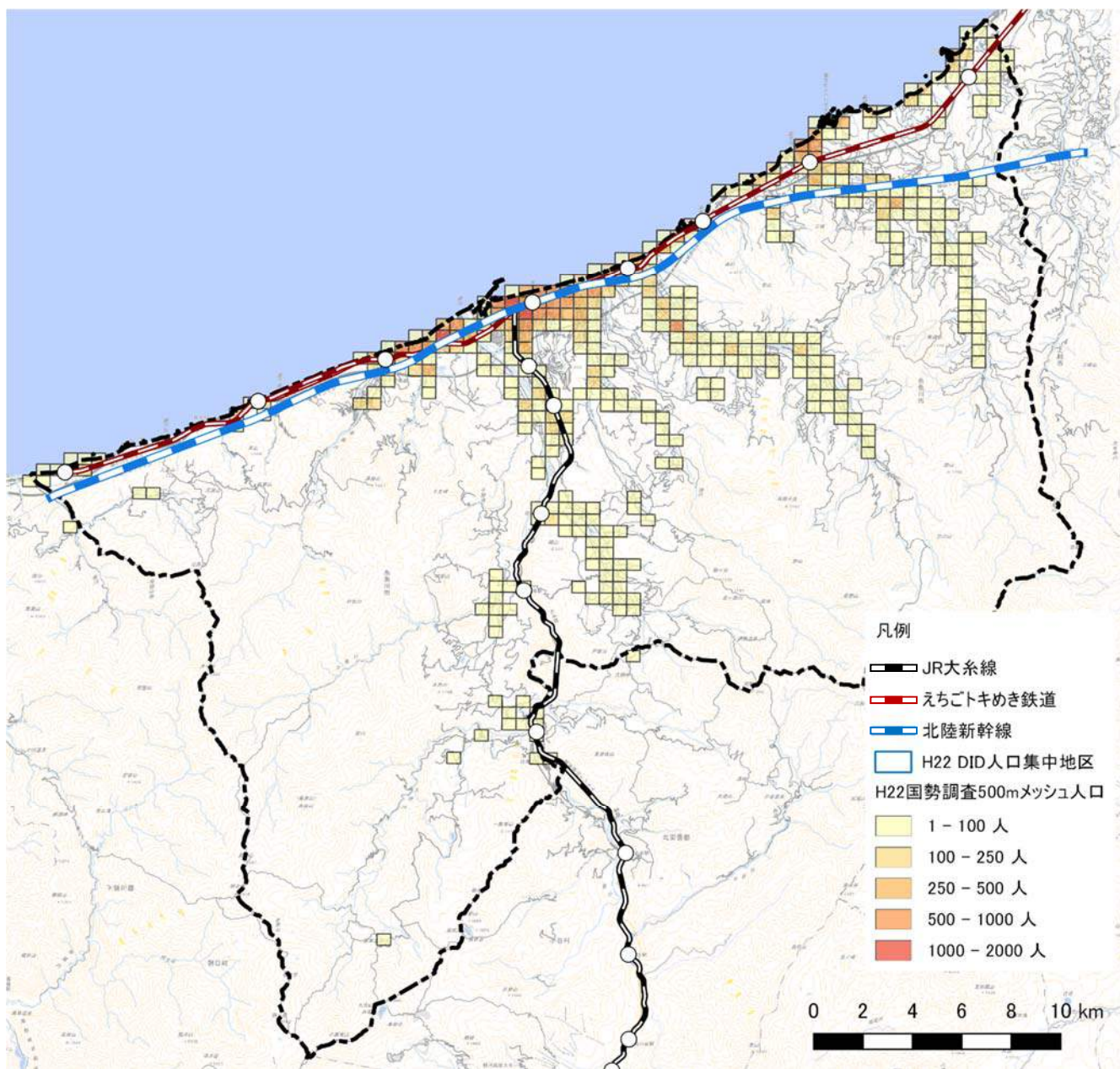
図：年齢3区分別の人口推移  
(出典：実績値国勢調査 推計値糸魚川市人口ビジョン)



図：年齢3区分別の人口構成推移  
(出典：実績値国勢調査 推計値糸魚川市人口ビジョン)

#### (4) 人口分布

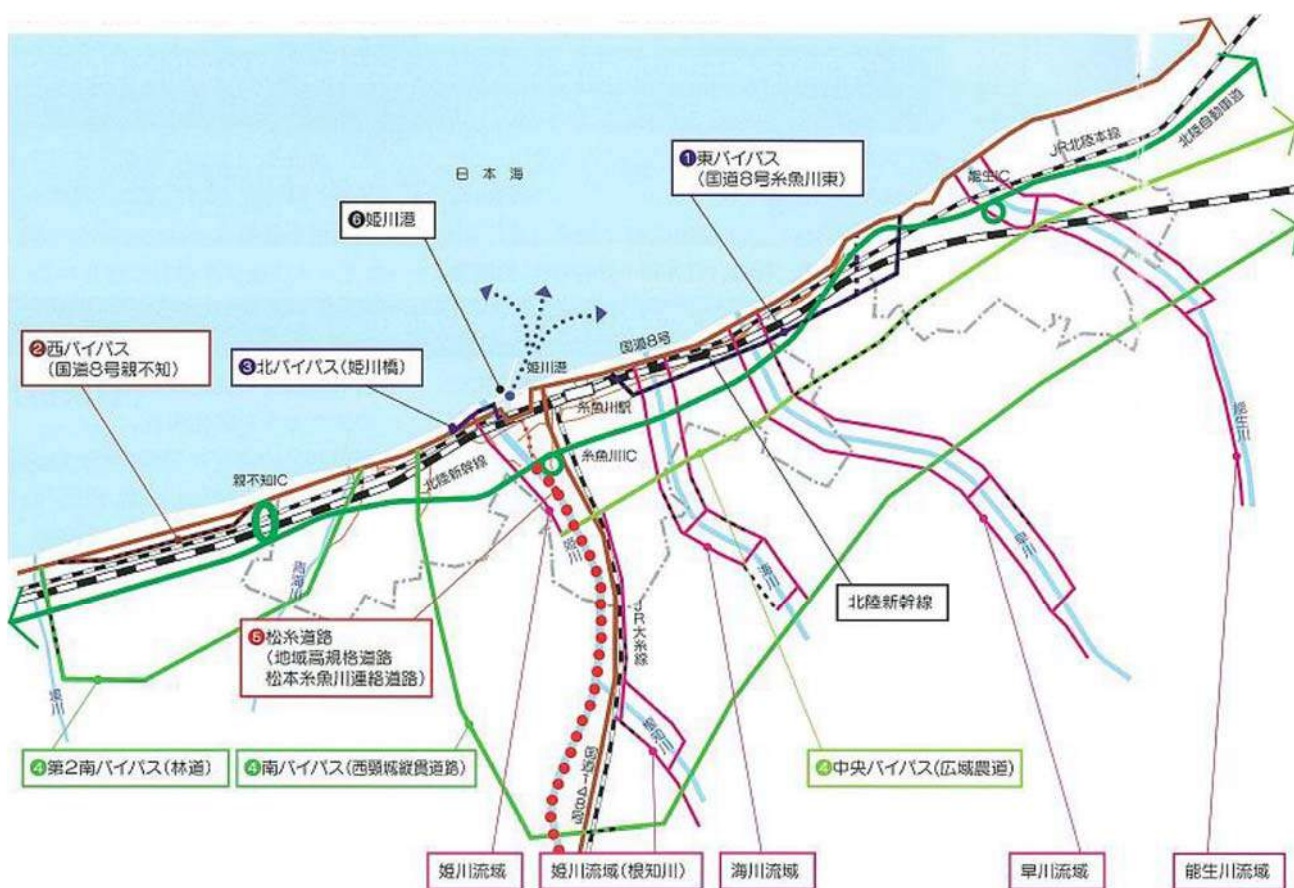
- ・糸魚川市内では、えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン沿線及び国道8号線沿線に人口が集中する他、南に向かって伸びる谷筋や日本海沿岸に人口が分布する。
- ・都市的地域の広がりを示す指標であるDID地区（人口集中地区）は、糸魚川駅周辺や近江駅周辺の用途地域に広がる。
- ・山間部や市街地から外れた海岸部は、人口が低密な地域が広がる。



図：市内における人口分布の状況  
(出典：国勢調査)

(5) 市内主要道路網

- ・市内の主要道路網として、市の北側、日本海沿いを国道8号が横断し、一級河川姫川沿いに国道148号が縦断しており、当市と近隣市町村を結ぶ路線として重要な役割を果たしている。
- ・国道8号から、主要河川沿いや谷筋沿いに県道、市道が走っており、生活道路として住民に欠かすことのできない路線となっている。
- ・昭和63年から整備を進めてきた都市計画道路中央大通り線が平成26年12月に全線開通し、国道148号と結節した。
- ・中央大通り線は、平成27年4月1日から県道西中糸魚川線に名称を変更した。
- ・国道8号とえちごトキめき鉄道、国道148号とJR大糸線が並走している。

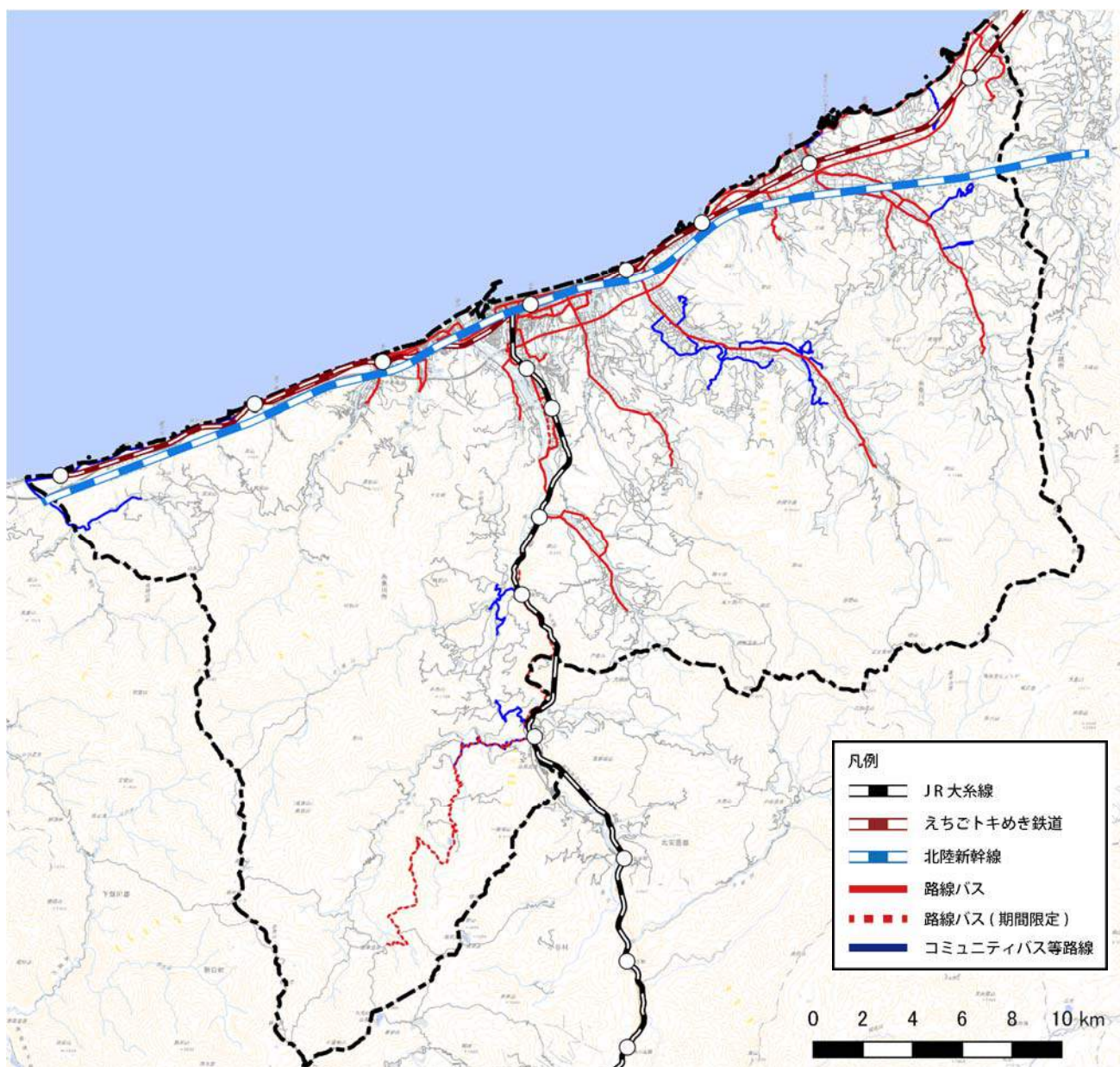


図：市内主要道路  
 (出典：いといがわ交通ネットワークビジョン 平成25年見直し)

### 3. 公共交通の現状

#### (1) 市内公共交通網

- ・平成27年3月14日、北陸新幹線長野・金沢間開業により、北陸新幹線糸魚川駅が開業した。同時に市内を通る北陸本線はJRから経営分離され、日本海ひすいラインとしてえちごトキめき鉄道株式会社へ経営移管された。
- ・市内には、えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインとJR大糸線の在来線が通っており、能生地域2駅、糸魚川地域8駅、青海地域3駅の合計13駅がある。
- ・路線バスは、糸魚川駅や糸魚川総合病院等の市内の各拠点から各地域へ運行しているため、糸魚川市街地では複数の路線が重複している。
- ・コミュニティバス・乗合タクシーは、鉄軌道や路線バスが行き届かない地域や中山間地域等を運行し、地域の医療施設の受診や日用品の買い物等に向かうための生活の足となっている。



図：平成28年度 市内公共交通網  
(出典：市HP 各運行事業者バス路線図)

(2) 鉄道

① 主要駅における鉄道運行状況

- ・日本海ひすいラインと大糸線との乗り継ぎ駅である糸魚川駅では1日あたり48本、能生駅では1日あたり40本、青海駅では1日あたり38本の列車が発着している。
- ・北陸新幹線糸魚川駅では、停車タイプの「はくたか」が1日あたり30本発着している。
- ・糸魚川駅からは1日1本、新潟行の快速列車が運行していたが、平成29年3月ダイヤ改正をもって運行取りやめとなった。
- ・平成28年より観光列車「雪月花」が糸魚川－妙高高原間を運行している。

能生駅路線別運行本数

表：能生駅路線別運行本数  
(出典：各運行事業者時刻表)

駅名	路線名			種別	運行本数		運行時間帯	
					平日	休日	平日	休日
能生駅	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	18本/日	18本/日	6時台～23時台	6時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	10時台	10時台
			新潟行	普通	—	—	—	—
				快速	1本/日	1本/日	8時台	8時台
		市振・泊方面	泊行	普通	14本/日	14本/日	5時台～20時台	5時台～20時台
				快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台
			糸魚川行	普通	4本/日	4本/日	7時台～23時台	7時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	20時台	20時台

えちごトキめき鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

糸魚川駅路線別運行本数

表：糸魚川駅路線別運行本数  
(出典：各運行事業者時刻表)

駅名	路線名			種別	運行本数		運行時間帯	
					平日	休日	平日	休日
糸魚川駅	北陸新幹線	東京方面	東京行	はくたか	14本/日	14本/日	7時台～21時台	7時台～21時台
			長野行	はくたか	1本/日	1本/日	22時台	22時台
		金沢方面	金沢行	はくたか	15本/日	15本/日	6時台～22時台	6時台～22時台
			JR大糸線	南小谷方面	南小谷行	普通	7本/日	7本/日
	平岩行	普通			2本/日	2本/日	6時台、18時台	6時台、18時台
	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	18本/日	18本/日	6時台～22時台	6時台～22時台
				快速	1本/日	1本/日	10時台	10時台
			新潟行	普通	—	—	—	—
				快速	1本/日	1本/日	7時台	7時台
		市振・泊方面	泊行	普通	16本/日	16本/日	6時台～23時台	6時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	—	11時台、14時台
			高岡行	普通	1本/日	1本/日	7時台	7時台
金沢行			普通	1本/日	1本/日	6時台	6時台	

西日本旅客鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正  
えちごトキめき鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

## 青海駅路線別運行本数

表：青海駅路線別運行本数  
(出典：運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
青海駅	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	14本/日	14本/日	6時台～21時台	6時台～21時台
				快速	1本/日	1本/日	9時台	9時台
			糸魚川行	普通	4本/日	4本/日	19時台～23時台	19時台～23時台
		市振・泊方面	泊行	普通	16本/日	16本/日	5時台～21時台	5時台～21時台
				快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台
			高岡行	普通	1本/日	1本/日	7時台	7時台
		金沢行	普通	1本/日	1本/日	6時台	6時台	

えちごトキめき鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

## 平岩駅路線別運行本数

表：平岩駅路線別運行本数  
(出典：運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
平岩駅	JR大糸線	糸魚川方面	糸魚川行	普通	9本/日	9本/日	7時台～21時台	7時台～21時台
		南小谷方面	南小谷行	普通	7本/日	7本/日	6時台～20時台	6時台～20時台

西日本旅客鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

## 駅構造

- ・市内にあるえちごトキめき鉄道日本海ひすいラインの駅は地下駅、高架駅が多く、改札からホームまでに長い階段を利用する必要がある。エレベーターが設置されている駅舎は糸魚川駅のみである。
- ・市内にあるJR大糸線の駅はすべて地上駅であり、改札からホームが直結している駅が多く2、3段の階段があるものの、比較的利用しやすい駅が多い。

## ■えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン

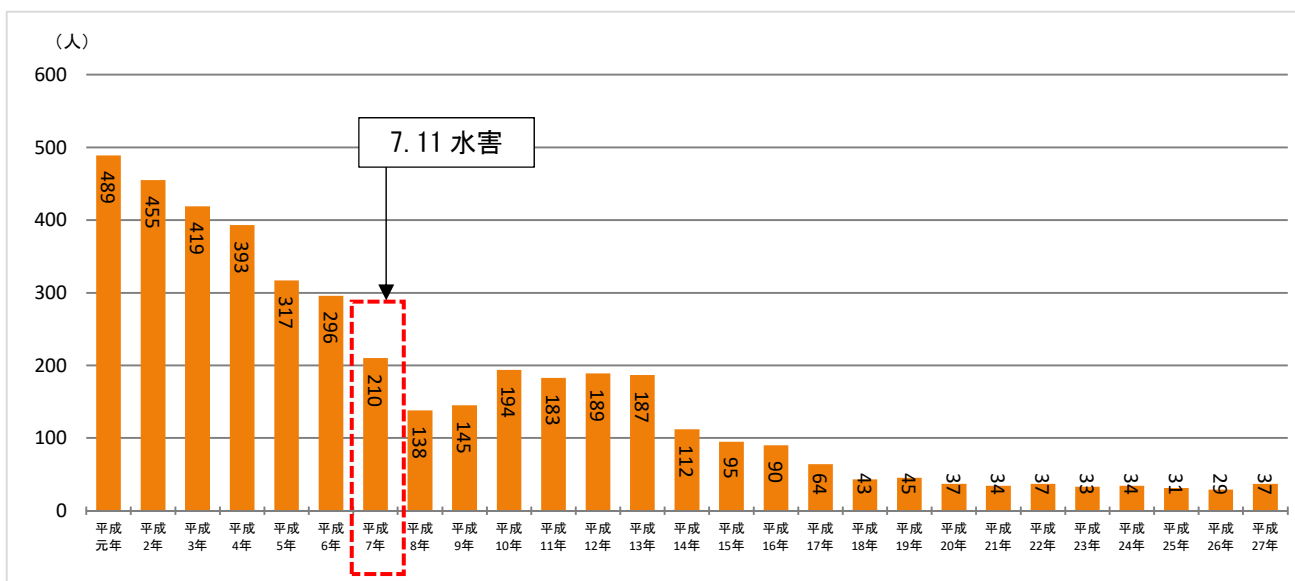
駅名	駅間キロ	接続路線	駅構造	ホーム構造	管理	有人・無人
筒石駅	7.5km	—	地下駅	2面2線	業務委託駅	有人
能生駅	5.1km	—	高架駅	2面4線	直営駅	有人
浦本駅	3.5km	—	高架駅	2面2線	—	無人
梶屋敷駅	4.3km	—	地上駅	2面3線	—	無人
糸魚川駅		JR西日本北陸新幹線、 JR西日本大糸線	橋上駅	2面4線	直営駅	有人
青海駅	6.6km	—	橋上駅	2面4線	簡易委託駅	有人
親不知駅	5.3km	—	地上駅	1面2線	—	無人
市振駅	8.6km	あいの風とやま鉄道	地上駅	1面2線	—	無人

## ■JR大糸線

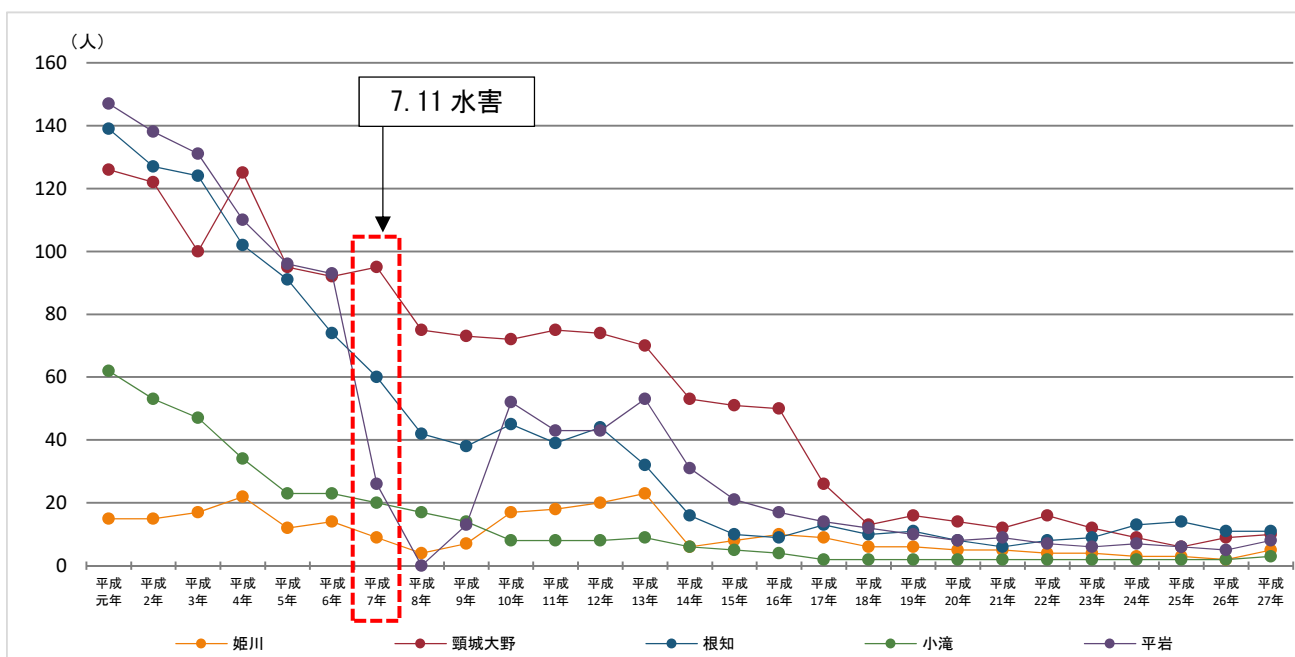
駅名	駅間キロ	接続路線	駅構造	ホーム構造	管理	有人・無人
姫川駅	3.2km	—	地上駅	1面1線	—	無人
頸城大野駅	1.9km	—	地上駅	1面1線	—	無人
根知駅	4.9km	—	地上駅	2面2線	—	無人
小滝駅	3.6km	—	地上駅	1面1線	—	無人
平岩駅	6.8km	—	地上駅	1面1線	—	無人

② J R大糸線の利用状況

- ・平成元年以降、利用者数が減少している。平成18年から減少が緩やかになり、30人～40人程度で推移している。
- ・平成7年7月11日、関川流域及び姫川流域に甚大な被害をもたらした「7.11水害」によりJR大糸線は平成8年～9年にかけて一時的に利用者数が減少している。平岩駅では平成8年に利用者数が0人となっている。
- ・頸城大野、根知、平岩駅では、平成元年には120人程度の利用があったが、平成27年は20人以下まで減少している。
- ・各駅の利用者数は一様に減少傾向にある。



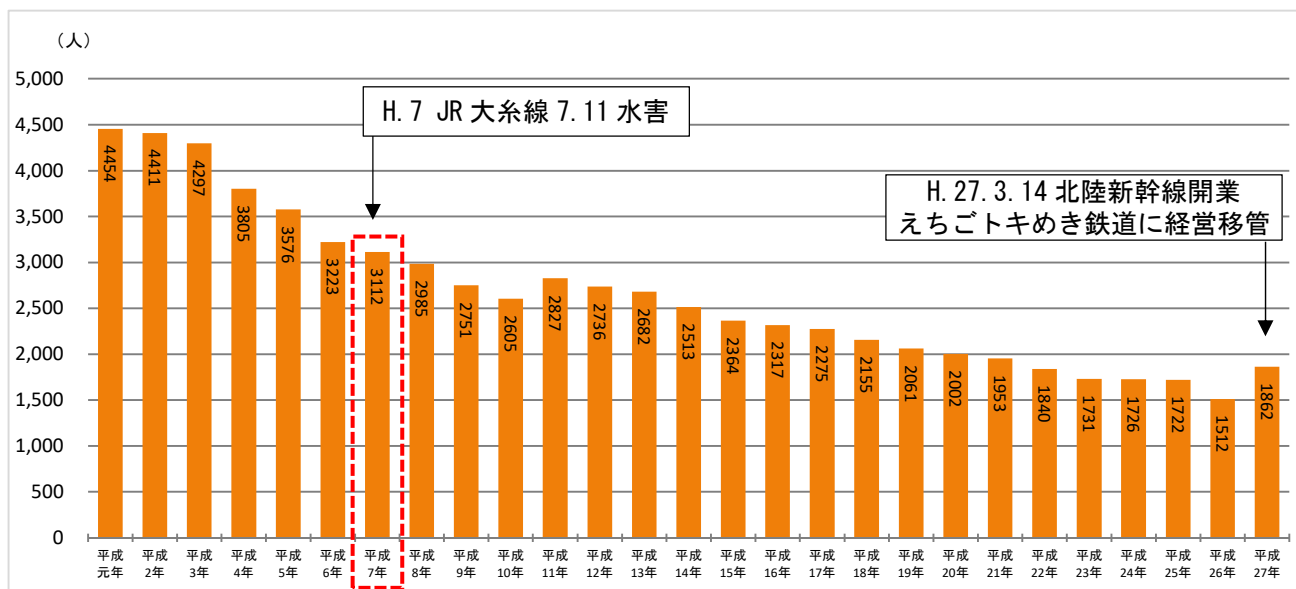
図：JR大糸線乗客数推移  
(出典：市資料)



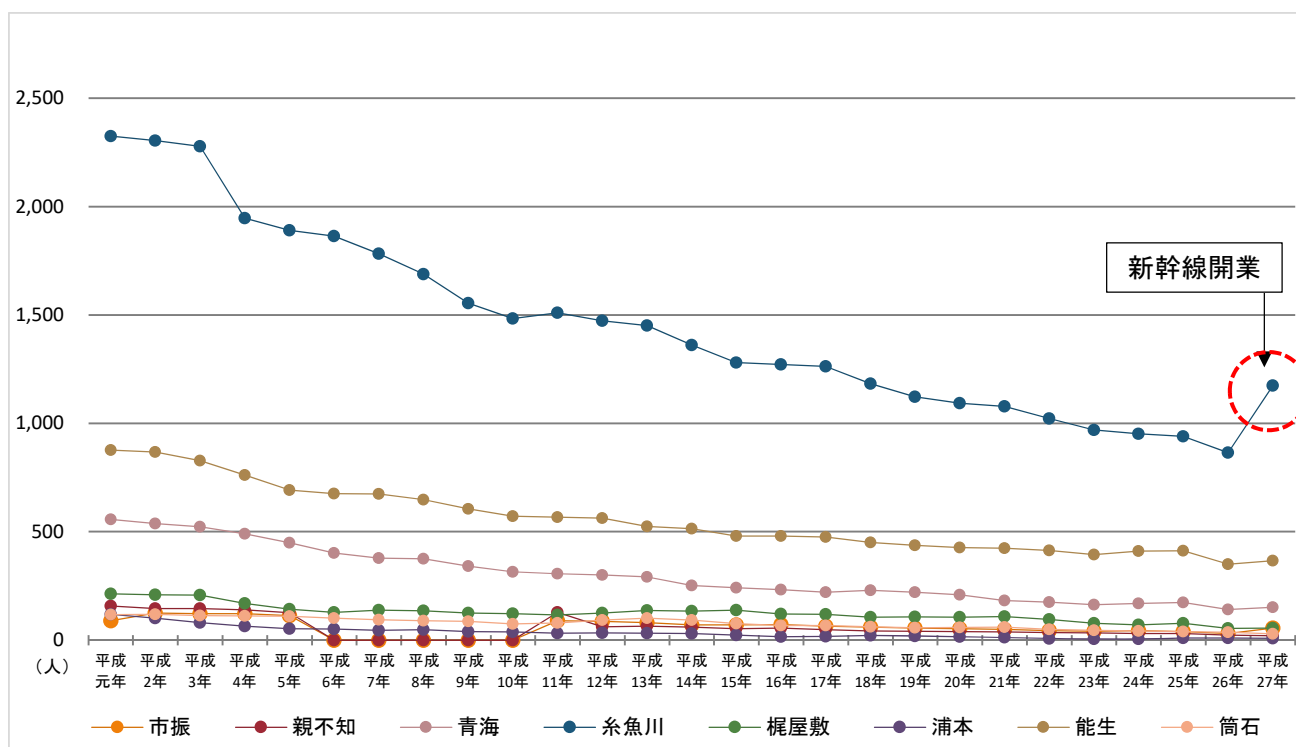
図：JR大糸線駅別乗車人員推移  
(出典：市資料)

③ JR北陸本線、えちごトキめき鉄道の利用状況

- ・北陸本線の利用状況について、大糸線同様、平成元年以降、利用者数が減少している。
- ・新幹線の開業年であった平成27年は利用者数が増加している。
- ・平成9年～10年に一時的に利用者数が減少している。
- ・駅別に利用状況を見ると、各駅の利用者数は平成元年から減少している。新幹線が開業した平成27年には糸魚川駅の利用者数が増加している。



図：JR北陸本線・えちごトキめき鉄道乗客数推移  
(出典：市資料)



図：JR北陸本線・えちごトキめき鉄道駅別乗車人員推移  
(出典：市資料)



(3) バス

① 路線バス

①-1 路線バスネットワーク

- ・路線バスとして、糸魚川バス株式会社が市内 16 路線を運行し、頸城自動車株式会社が能生地域から上越市までの 1 路線を運行している。期間限定で運行している白馬岳登山バスを含めると、路線バスは 18 路線運行している。
- ・路線バスのうち、糸魚川駅、または糸魚川総合病院を起点、経由している路線は 12 路線ある。市街地周辺では複数路線が重複している。
- ・能生谷地区では、能生川の左岸・右岸を行き来する複雑な系統が存在している。
- ・焼山温泉、笹倉温泉、中尾長者温泉、フォッサマグナミュージアム等、市内の温泉地や観光地を結ぶ路線バスが運行されている。
- ・高速バスでは、糸魚川駅前と新潟駅前を結ぶ 1 路線を 1 日 2 往復毎日運行している。



図：糸魚川市内バス路線図 (出典：市資料)

①-2 運行状況

- ・路線バス（高速バスを除く）で路線延長が20kmを超えるものが7路線あり、バスの路線延長は長い。
- ・「美山公園・博物館線」は平成27年3月まで運行していた「街めぐりバス」を引き継いで平成27年4月より運行を開始した。「街めぐりバス」は土・日・祝のみの運行であったのに対し、「美山公園・博物館線」は平日も定時運行を行っている。
- ・隣接する富山県朝日町が運行しているあさひまちバスが市振に接続している。また、長野県小谷村が運行している北小谷線が平岩駅に接続している。
- ・市内を運行している路線は糸魚川駅、糸魚川総合病院等市街地と各谷あいを起終点とする路線が多く、海岸部から市街地にかけて路線の競合が見られる。能生地域で4路線、糸魚川地域で5路線、青海地域で3路線が競合している。

表：路線バス一覧  
（出典：各運行事業者HP、時刻表）

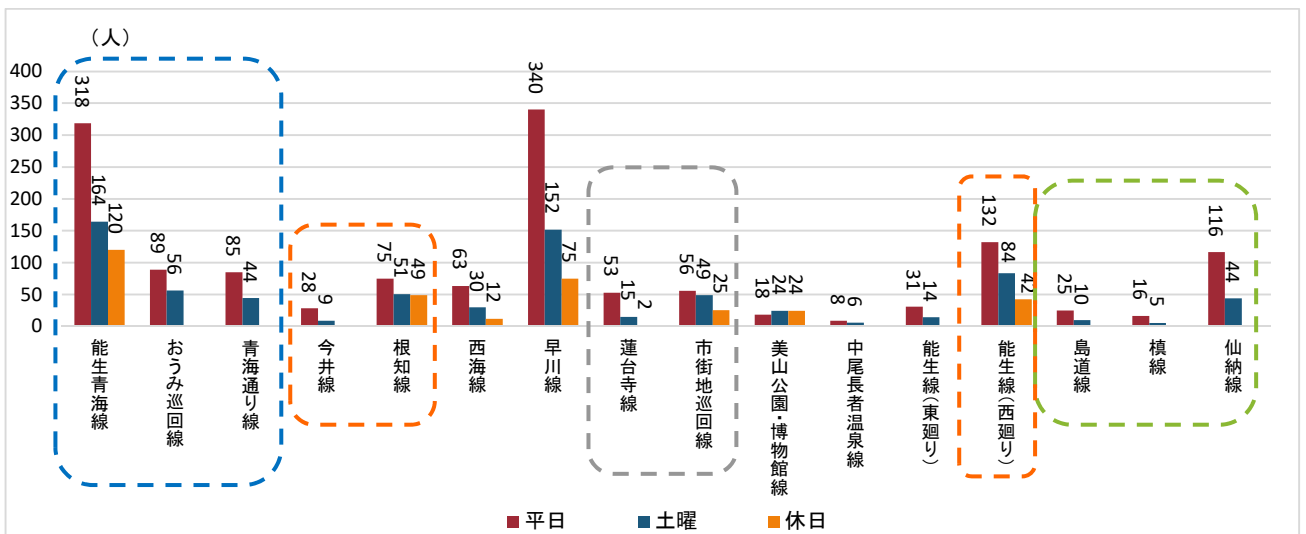
路線名	運行事業者	始発-経由-終点	運賃	最大運行距離	運行本数(往復)			運行時間帯		運行本数/時間(本/h)		
					平日	土曜	日曜・祝日	平日(下段:土)	日曜・祝日	平日	(土)	日曜・祝日
能生青海線	糸魚川バス	大沢-糸魚川総合病院-能生駅前	140 ~ 850 円	26.2 km	30	28	25	6 時台 ~ 19 時台	6 時台 ~ 18 時台	2.3	2.2	2.1
おうみ巡回線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-おうみ巡回-大沢	100 ~ 310 円	18.0 km	8	10	—	6 時台 ~ 15 時台	—	0.9	1.1	—
青海通り線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-青海通り-大沢	140 ~ 600 円	14.7 km	8	16	—	7 時台 ~ 18 時台	—	0.7	1.5	—
今井線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-糸魚川駅日本海口-中谷内	140 ~ 480 円	9.9 km	11	9	—	8 時台 ~ 18 時台 7 時台、12 時台	—	1.1	1.8	—
根知線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-糸魚川駅日本海口-別所	140 ~ 820 円	22.4 km	17	16	10	7 時台 ~ 17 時台	8 時台 ~ 17 時台	1.7	1.6	1.1
西海線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-糸魚川総合病院-来海沢	140 ~ 520 円	13.7 km	12	12	8	7 時台 ~ 18 時台	7 時台 ~ 18 時台	1.1	1.1	0.7
早川線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-糸魚川総合病院-焼山温泉・笹倉温泉	140 ~ 730 円	23.0 km	27	25	16	6 時台 ~ 18 時台	6 時台 ~ 17 時台	2.3	2.1	1.5
蓮台寺線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-蓮台寺入り口-糸魚川総合病院	140 ~ 490 円	5.8 km	6	2	2	7 時台 ~ 18 時台	8 時台 ~ 9 時台	0.5	0.2	2.0
市街地巡回線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-市街地巡回-糸魚川駅日本海口	100 ~ 100 円	12.8 km	7	7	7	8 時台 ~ 14 時台	8 時台 ~ 14 時台	1.2	1.2	1.2
美山公園・博物館線	糸魚川バス	糸魚川駅アルブスロ-フォッサマグナムミュージアム-糸魚川駅アルブスロ	100 円	7.8 km	8	9	9	9 時台 ~ 16 時台	9 時台 ~ 16 時台	1.1	1.3	1.3
中尾長者温泉線	糸魚川バス	能生駅前-木浦-中尾長者温泉	140 ~ 340 円	6.4 km	7	12	—	12 時台 ~ 18 時台 12 時台 ~ 17 時台	—	1.2	2.4	—
能生線(東廻り)	糸魚川バス	横町五丁目-国保診療所-西飛山	140 ~ 950 円	31.0 km	2	4	—	8 時台 ~ 13 時台	—	0.4	0.8	—
能生線(西廻り)	糸魚川バス	横町五丁目-国保診療所入口-西飛山	140 ~ 580 円	29.5 km	33	20	12	8 時台 ~ 18 時台	8 時台 ~ 17 時台	3.3	2.0	1.3
島道線	糸魚川バス	能生案内所-国保診療所-島道	140 ~ 370 円	7.8 km	6	12	—	7 時台 ~ 17 時台	—	0.6	1.2	—
横線	糸魚川バス	能生案内所-国保診療所-横	140 ~ 350 円	8.6 km	5	10	—	8 時台 ~ 18 時台	—	0.5	1.0	—
仙納線	糸魚川バス	能生駅前-徳合崎-仙納	140 ~ 660 円	14.8 km	10	20	—	7 時台 ~ 17 時台	—	1.0	2.0	—
能生線(労災病院線)	頸城自動車	能生案内所-磯部小学校入口-労災病院前	140 ~ 1,040 円	30.6 km	4	4	—	7 時台 ~ 15 時台	—	0.5	0.5	—
白馬岳登山バス(運筆線)	糸魚川バス	糸魚川駅アルブスロ-平岩駅前-蓮華温泉 H28.7.16(土)~10.10(月)	200 ~ 1,790 円	43.8 km	4	4	4	6 時台 ~ 14 時台	6 時台 ~ 14 時台	0.5	0.5	0.5
宮崎境線・市振線	朝日町	泊駅前-あさひ総合病院-玉ノ木-市振	200 円	17.1 km	10	—	—	6 時台 ~ 14 時台	—	1.3	—	—
北小谷線	小谷村	千国の庄-南小谷駅-平岩駅前-大綱	200 円	22.2 km	8	—	—	6 時台 ~ 18 時台	—	0.7	—	—
高速バス新潟線	頸城自動車	糸魚川駅前-(北陸自動車道)-新潟駅前	190 ~ 2,850 円	177.1 km	2	2	2	7 時台 ~ 8 時台	7 時台 ~ 8 時台	2.0	2.0	2.0

※運行本数/時間 は各便の運行時間帯に対する運行本数を算出している。

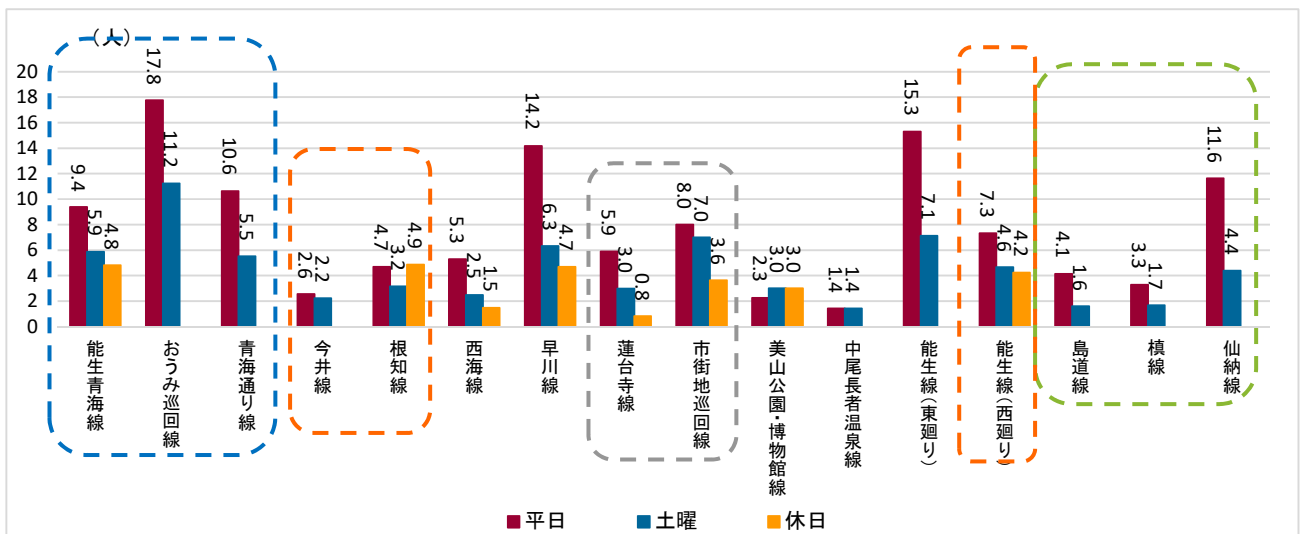
①-3 乗客数推移

- ・1日当たり平均乗車人数を見ると、平日では能生青海線、早川線が1日当たり300人を超え、市内路線バスの中で利用人数が多い路線である。
- ・土曜日は平日同様に能生青海線、早川線で1日平均乗車人数150人と平日の半数程度となる。
- ・日曜日では、市内16路線の内8路線が運休している。1日平均乗車人数は平日よりも少ない路線が多いが、美山公園・博物館線では、平日の利用人数よりも日曜日の利用人数の方が多い。
- ・1便あたりの平均乗車人数を見ると、平日ではおうみ巡回線が最も多く1便あたり17.8人、次いで能生線（東周り）15.3（人/便）、早川線14.2（人/便）。土曜では平日同様におうみ巡回線が最も多く11.2（人/便）、次いで能生線（東周り）7.1（人/便）、市街地巡回線7.0（人/便）。

※乗降客調査は平成27年1月、4月、7月、10月のそれぞれ14日間（平日10日、土曜2日、日曜2日）実施している。  
 ※1日平均乗車人数は各調査日の乗車人数を集計し、1日当たりの平均乗車人員を算出している。  
 ※着色部は各バス路線の一部が重複しているまたは近隣を運行している路線を示す。

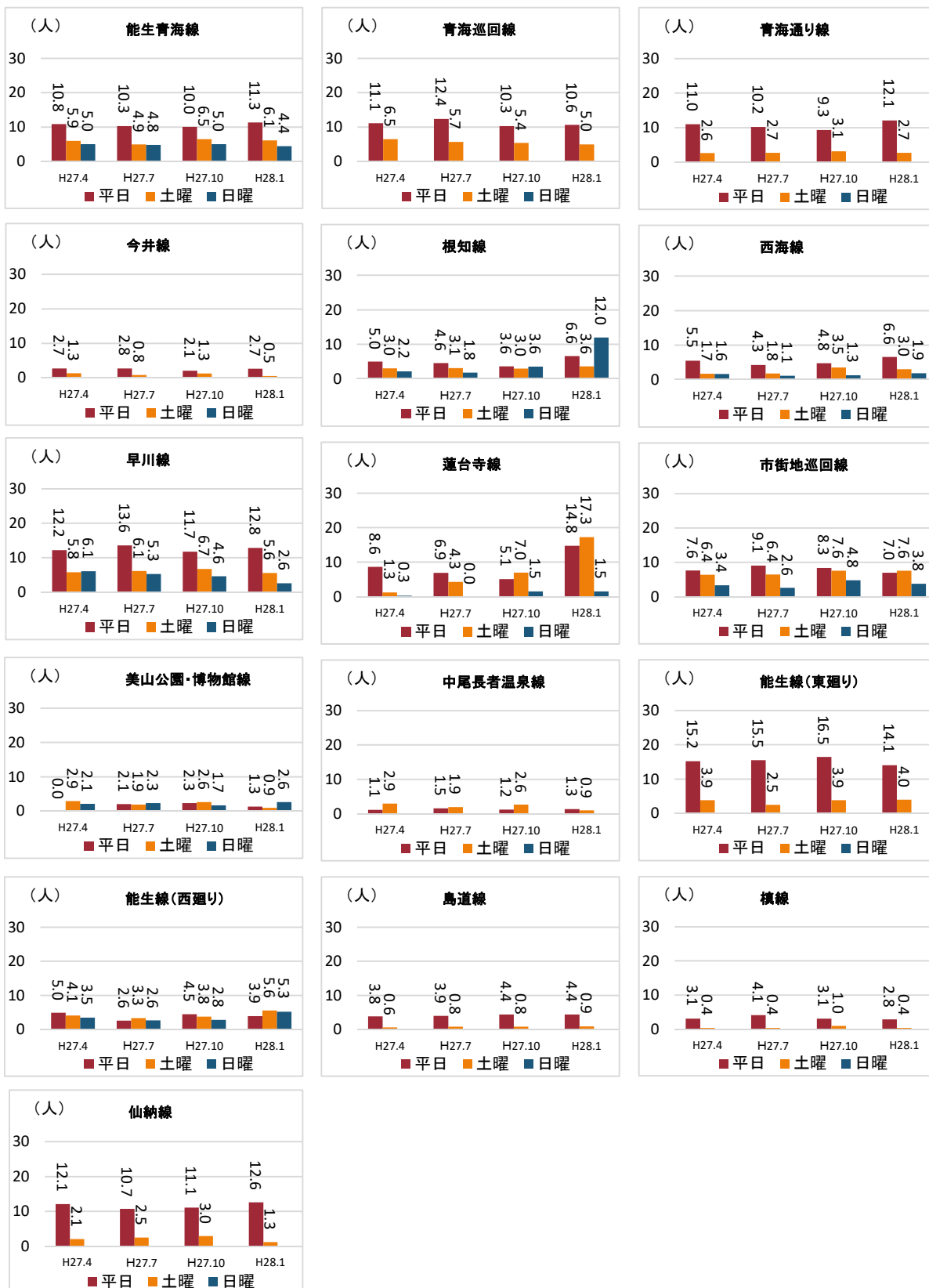


図：平成27年度調査期間における1日当たり平均乗車人数（路線別）  
 （出典：糸魚川バス株式会社資料）



図：平成27年度調査期間における時間帯別1便あたり平均乗車人数（路線別）  
 （出典：糸魚川バス株式会社資料）

- ・1 便当たり平均乗車人数は、全体的に平日の乗車人数が土曜、日曜の乗車人数よりも多い。
- ・根知線、蓮台寺線では1月の利用が他の月と比較して多い。根知線は特に日曜日の利用が多く、沿線のスキー場に向かう方が利用していると考えられる。蓮台寺線は平日と土曜の利用が他の月と比較して多い。



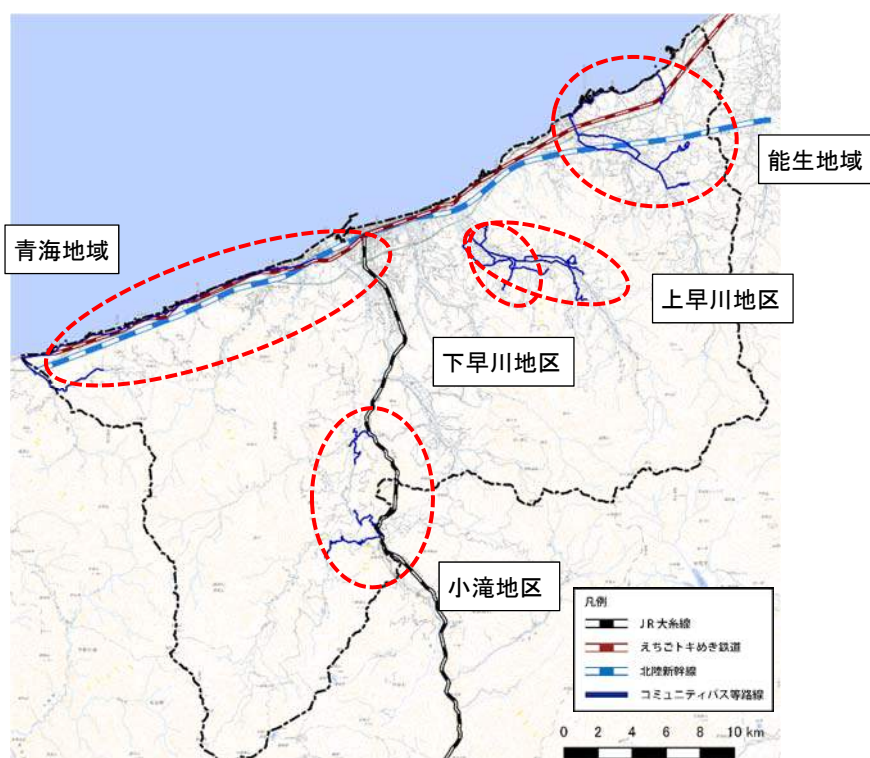
② コミュニティバス・乗合タクシー

②-1 運行状況

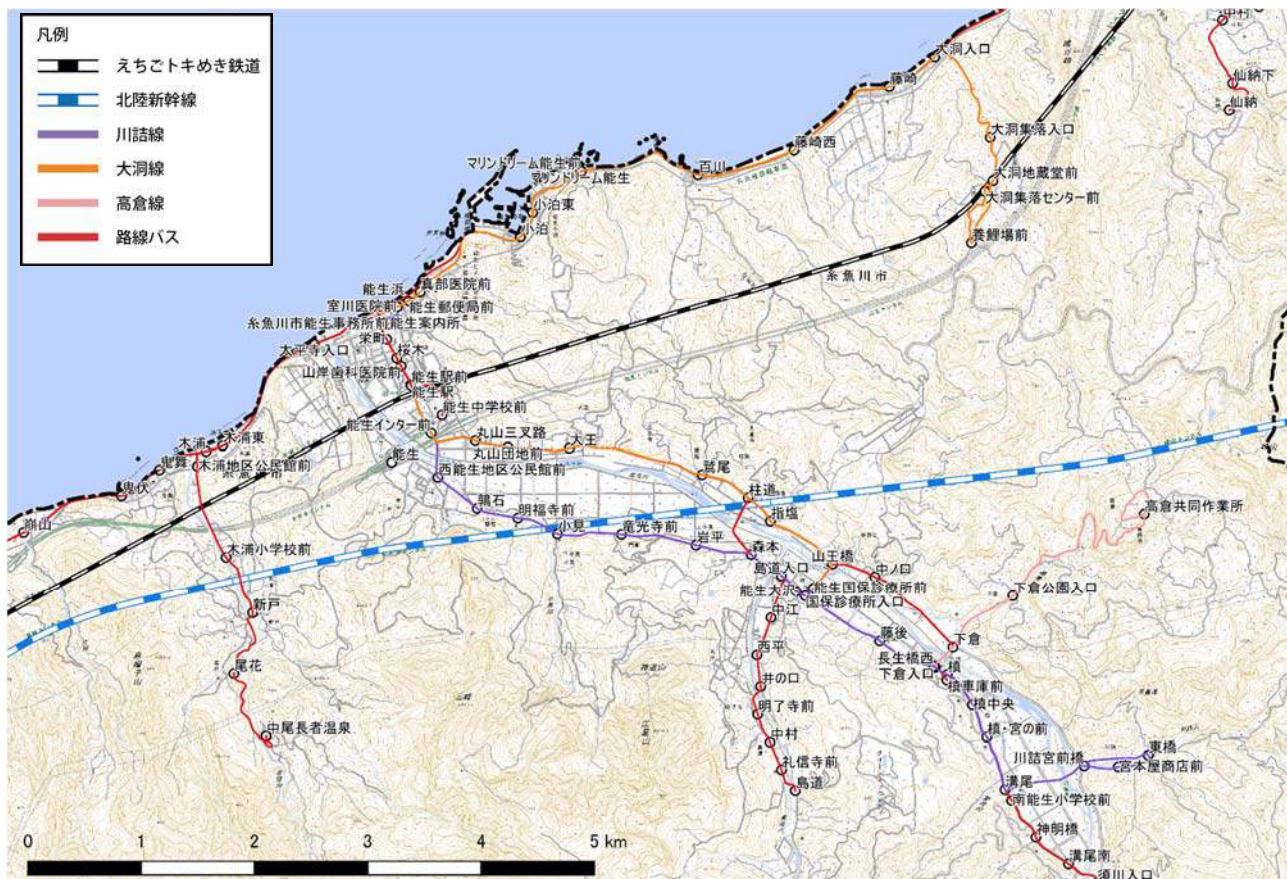
- ・糸魚川市では、路線バスの運行地域から離れた場所における移動手段確保として、コミュニティバス（定員 11 人以上）、乗合タクシー（定員 10 人以下）をそれぞれ週 1 日運行している。
- ・道路運送法 4 条路線として平成 23 年 4 月から 12 路線が運行している。平成 25 年 4 月からさらに 1 路線が追加され、計 13 路線の運行となった。
- ・運行頻度は地区ごとに異なり、1 日あたり 2 便～11 便である。料金はすべての路線 1 回 100 円で乗車することができる。

表：コミュニティバス・乗合タクシー一覧  
(出典：市資料)

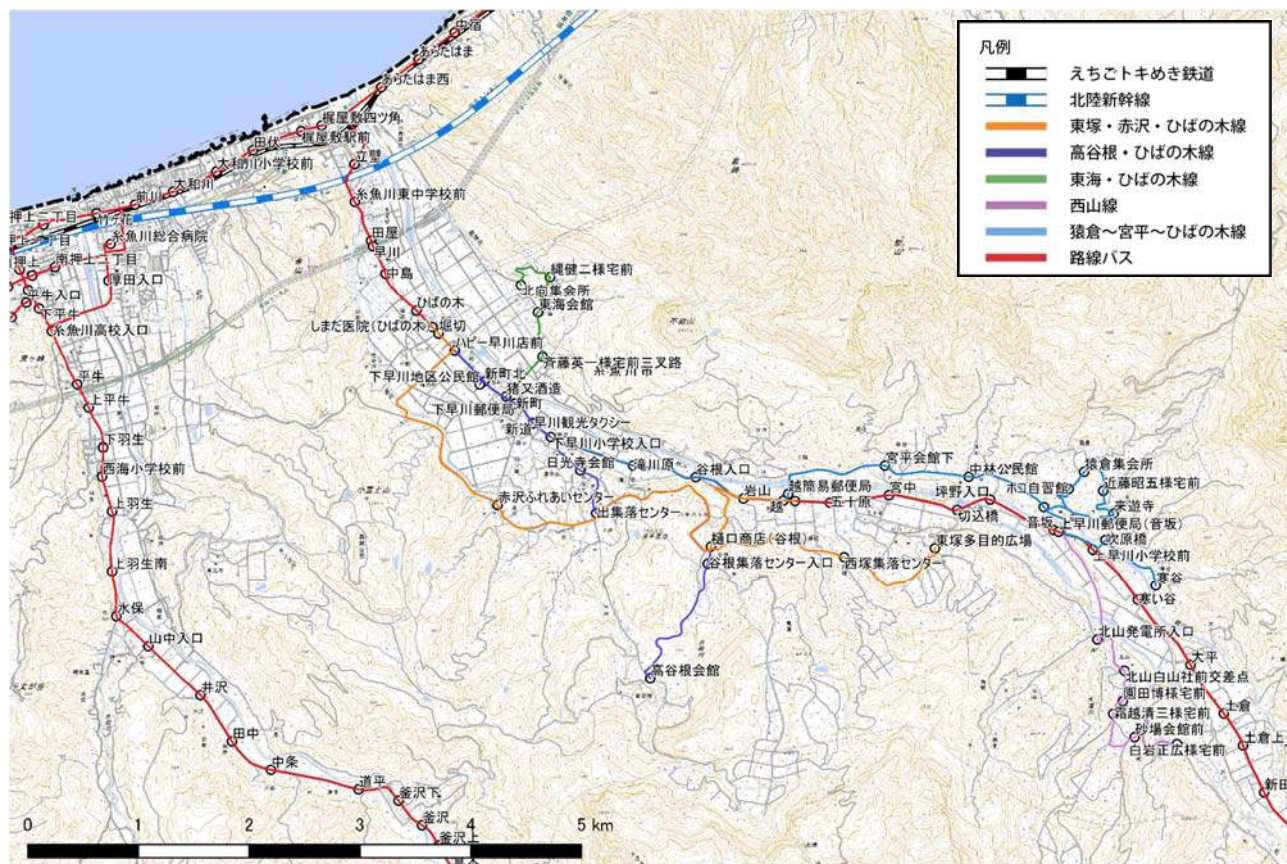
運行地域	路線名	便数/日	曜日	運賃	運行日	運行形態	使用車両	乗客定員	事業者	
能生地域	高倉線(高倉-能生事務所-真部病院)	3	木	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
	川詰線(川詰-能生事務所-真部病院)	3	火	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
	大洞線(大洞~能生国保診療所)	3	水	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
糸魚川地域	小滝地区	夏中・小滝駅線	11	水	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
		山之坊・平岩線	10	月	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
		木地屋・平岩診療所線	6	月	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
	下早川地区	東塚・赤沢・ひばの木線	4	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		高谷根・ひばの木線	4	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		東海・ひばの木線	2	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
	上早川地区	西山線	4	火	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		猿倉～宮平～ひばの木線	4	火	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
	青海地域	きらら青海・玉ノ木線	7	金	100円	週1	定時運行	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸
市振・上路線		2	金	100円	週1	予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	



図：平成 28 年度 コミュニティバス・乗合タクシー路線  
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

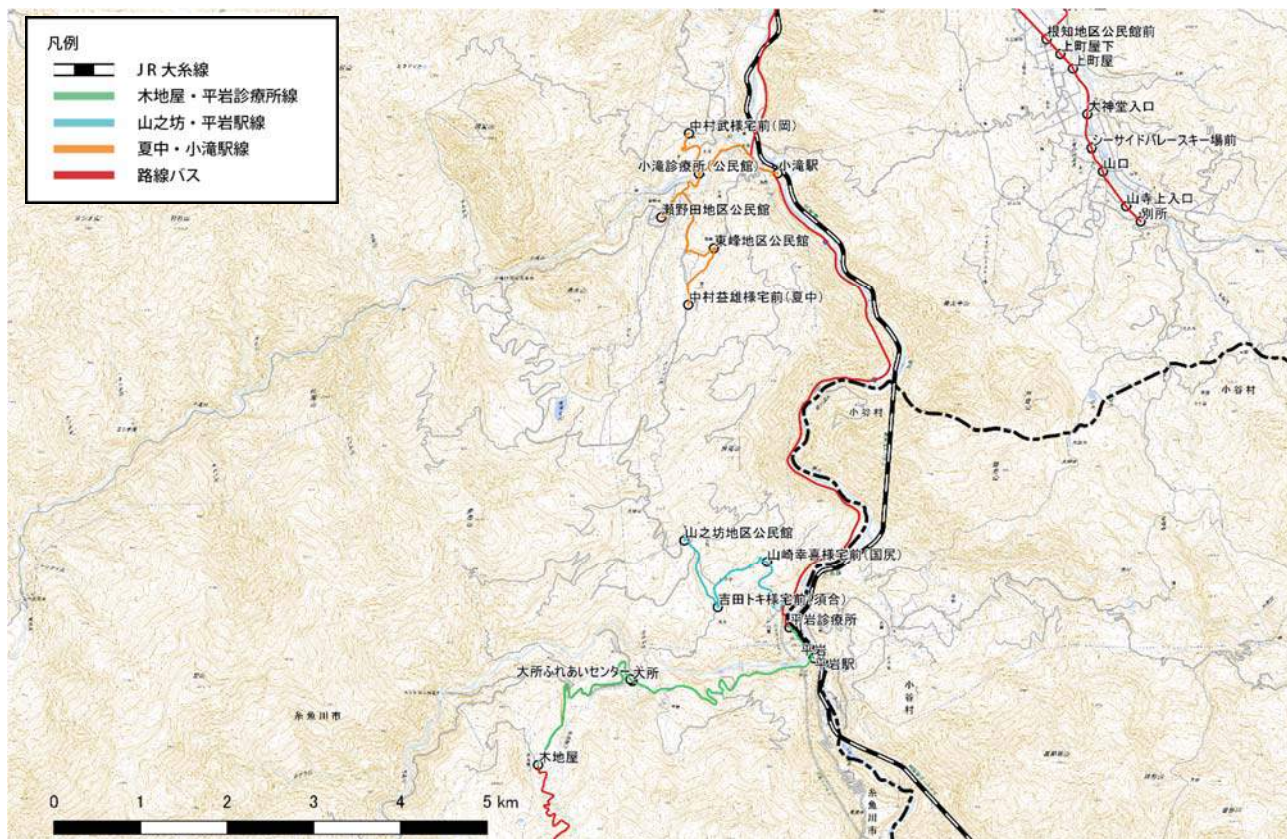


図：平成28年度 能生地域コミュニティバス路線  
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

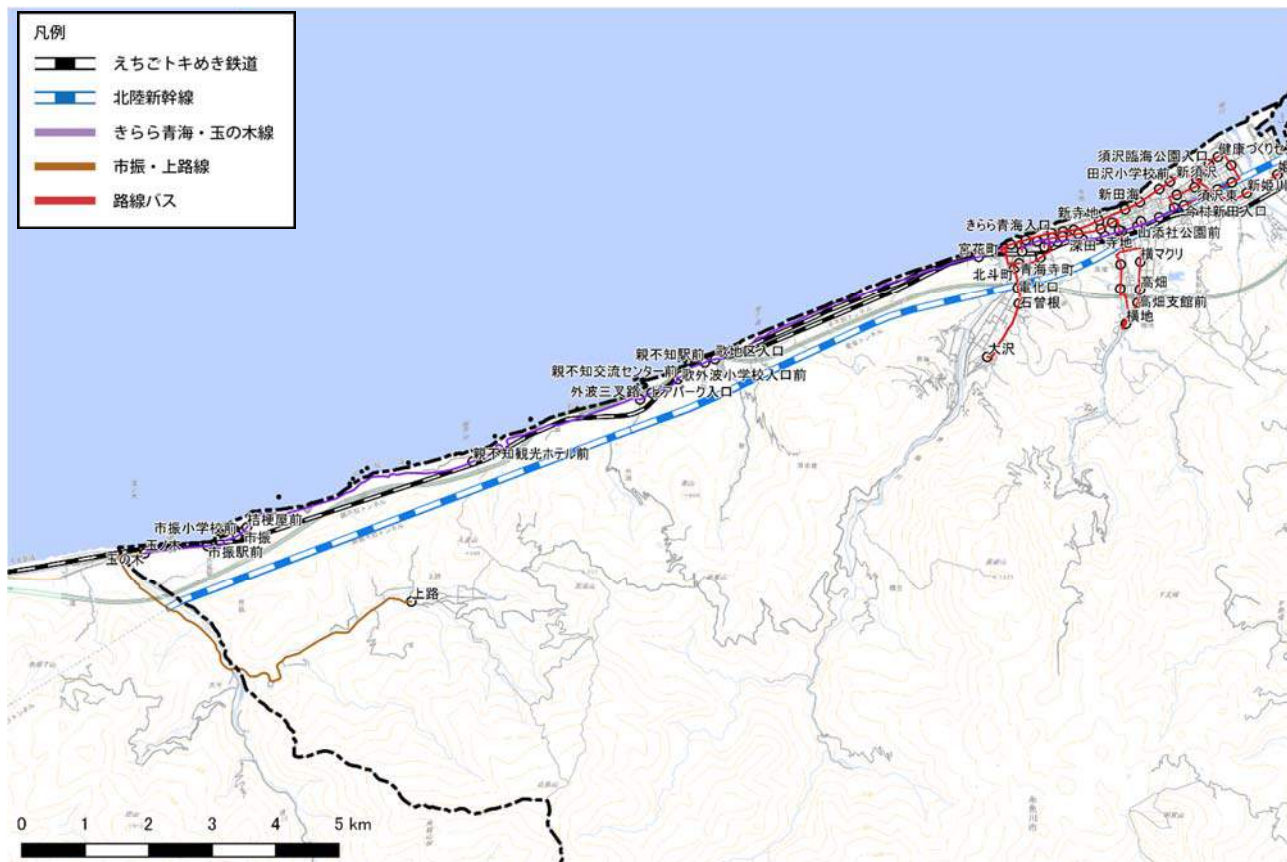


図：平成28年度 糸魚川地域コミュニティバス路線  
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

第2章 糸魚川市の現状分析



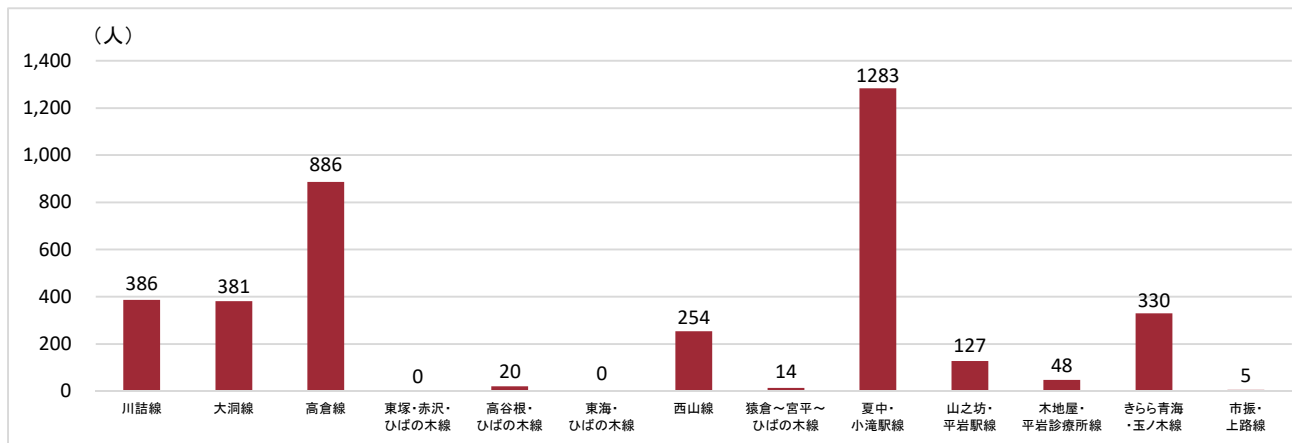
図：平成28年度 小滝地区、平岩地区コミュニティバス路線  
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



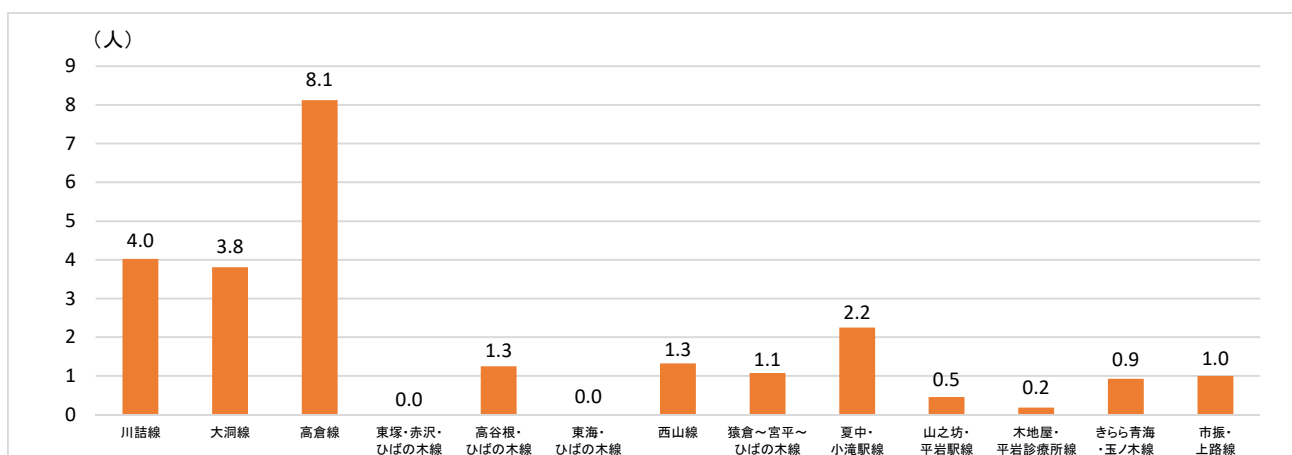
図：平成28年度 青海地域コミュニティバス路線  
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

②-2 乗客数推移

- ・平成27年度のコミュニティバス利用客数は地域によって大きく異なる。
- ・年間のコミュニティバス利用者数は夏中・小滝線が最も多い。
- ・1便当たりの平均利用者が最も多い路線は高倉線である。

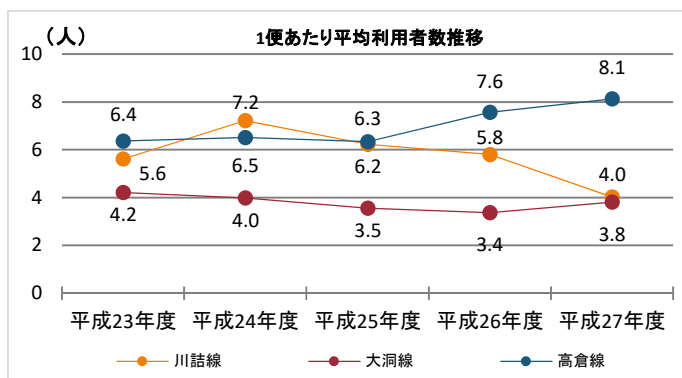


図：平成27年度 年間コミュニティバス乗車人数（路線別）  
（出典：市資料、各運行事業者バス路線図）



図：平成27年度 コミュニティバス1便あたり乗車人数（路線別）  
（出典：市資料、各運行事業者バス路線図）

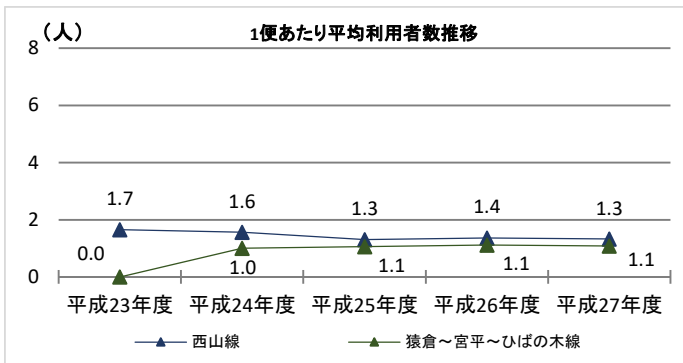
能生地域 コミュニティバス（13人乗り）利用状況



- ・川詰線は、平成24年の1便当たりの利用者数7.2人から平成27年には4.0人に減少している。
- ・一方、高倉線は平成25年の1便当たりの利用者数6.3人から平成27年には8.1人に増加している。
- ・大洞線は平成23年から1便当たりの利用者数は4.2～3.4人の間で推移している。

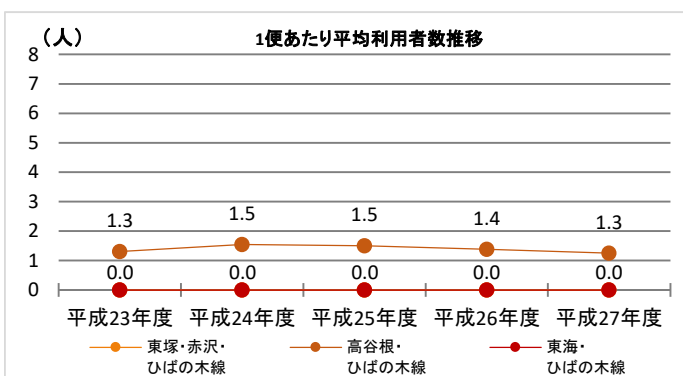


糸魚川地域上早川地区 乗合タクシー（4人乗り）利用状況



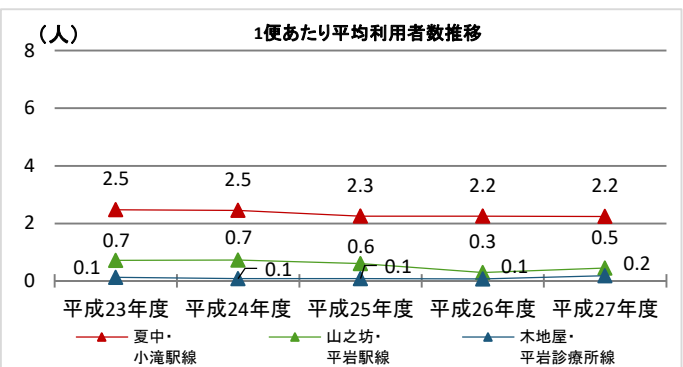
- ・ 西山線は1便当たりの利用者数が1.7～1.3人で推移している。
- ・ 猿倉～宮平～ひばの木線は平成23年以降、1便当たりの利用者数1.0～1.1人で推移している。

糸魚川地域下早川地区 乗合タクシー（4人乗り）利用状況



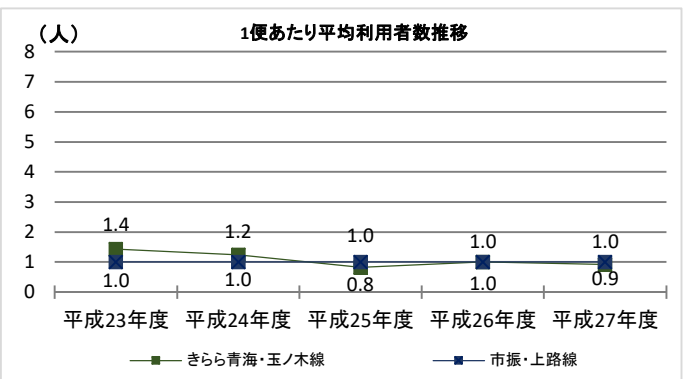
- ・ 下早川地区の乗合タクシーは、東塚・赤沢・ひばの木線は1便当たりの利用者数1.3～1.5人で推移している。
- ・ 高谷根・ひばの木線、東海・ひばの木線の利用者は0人である。

糸魚川地域小滝地区 乗合タクシー（9人乗り）利用状況



- ・ 夏中線の1便あたり利用者数は2.2～2.5人の間で推移している。平成24年以降は減少傾向にある。
- ・ 山之坊線、木地屋・平岩診療所線の1便あたり利用者数は1人未満である。

青海地域 コミュニティバス（13人乗り）利用状況



- ・ きらら玉ノ木線は、平成23年から平成25年までの1便あたり利用者数は減少し、以降は1便あたり1人で推移している。
- ・ 市振・上路線は平成23年から1便あたり1人未満で運行している。

## ③ その他（スクールバス等の公共的交通、自家用有償運送）

- ・市内の小中学校の通学に不便な地区では、路線バスやスクールバスを利用して通学している。
- ・平成30年3月に浦本小学校と市振小学校の閉校が予定されており、統合先小学校への児童の通学手段を検討する必要がある。浦本小学校については、大和川小学校への統合の意思決定がなされ、市振小学校は青海小学校への統合に向けた地元での協議が進められている。
- ・青海地域では、市町合併前から地域内に医療機関がない歌・外波・市振・玉ノ木地区において医療機関に向かう無料の送迎車を週1日運行している。
- ・能生地域では、市町合併前から能生地区から中尾長者温泉への利用者の輸送手段として、無料のふれあい送迎を週1日運行している。
- ・市内全域を対象に福祉有償運送を行っている。

表：糸魚川市内スクールバス等一覧  
（出典：市資料）

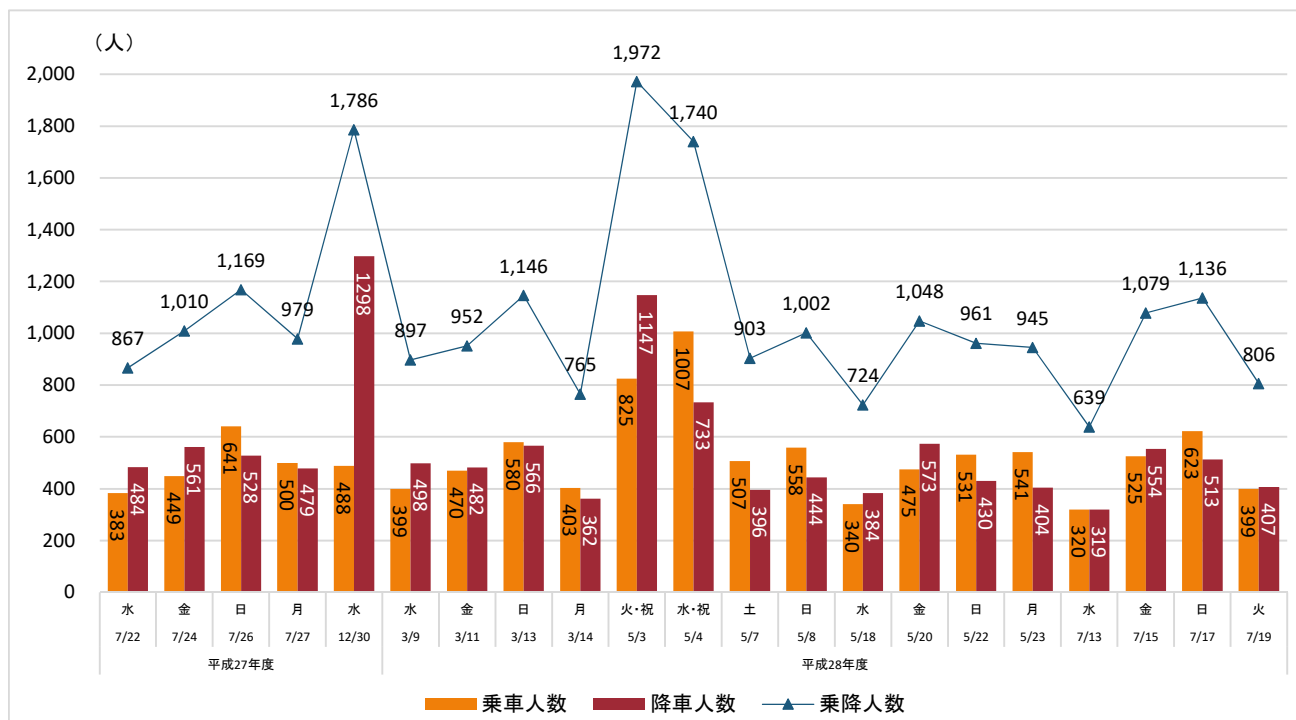
運行地域	目的地	運行形態	運行事業者（運行受託者）
能生地域	磯部小学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	大洞区（大洞～国道8号）
		路線バス	糸魚川バス株式会社
	南能生小学校	スクールバス（市有）	高倉地区通学バス運行組合
		タクシー	有限会社糸魚川タクシー（下校臨時）
	能生中学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	高倉地区通学バス運行組合（南能生小学校と同乗）
	糸魚川地域	下早川小学校	路線バス
西海小学校		路線バス	糸魚川バス株式会社（復路のみ）
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社（往路のみ糸魚川中学校スクールバス同乗）
糸魚川小学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
大野小学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社（一部往路のみ糸魚川中学校スクールバス同乗）
根知小学校		スクールバス（市有）	株式会社糸魚川シーサイドバレー
糸魚川東中学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
糸魚川中学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社
青海地域	田沢小学校	スクールバス（市有）	株式会社ツカダ運輸
	青海小学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	株式会社ツカダ運輸
	青海中学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	株式会社ツカダ運輸
		鉄道	えちごトキめき鉄道
	青海幼稚園	通園バス（市有）	株式会社ツカダ運輸、有限会社糸魚川タクシー
田沢幼稚園	通園バス（市有）	株式会社ツカダ運輸	

表：その他市内交通  
（出典：市資料）

運行地域	運行地区	目的地	運行形態	運賃	運行主体（運行事業者）
能生地域	能生地区	中尾長者温泉	ふれあい送迎	無料	糸魚川市
青海地域	歌・外波・市振、玉ノ木地区	富山県朝日町医療機関 青海地域の医療機関	医療受診者送迎車	無料	糸魚川市
市内全域	市内全域	市内全域	福祉有償運送	有料	特定非営利活動法人 ぐりんバスケット

(4) 北陸新幹線

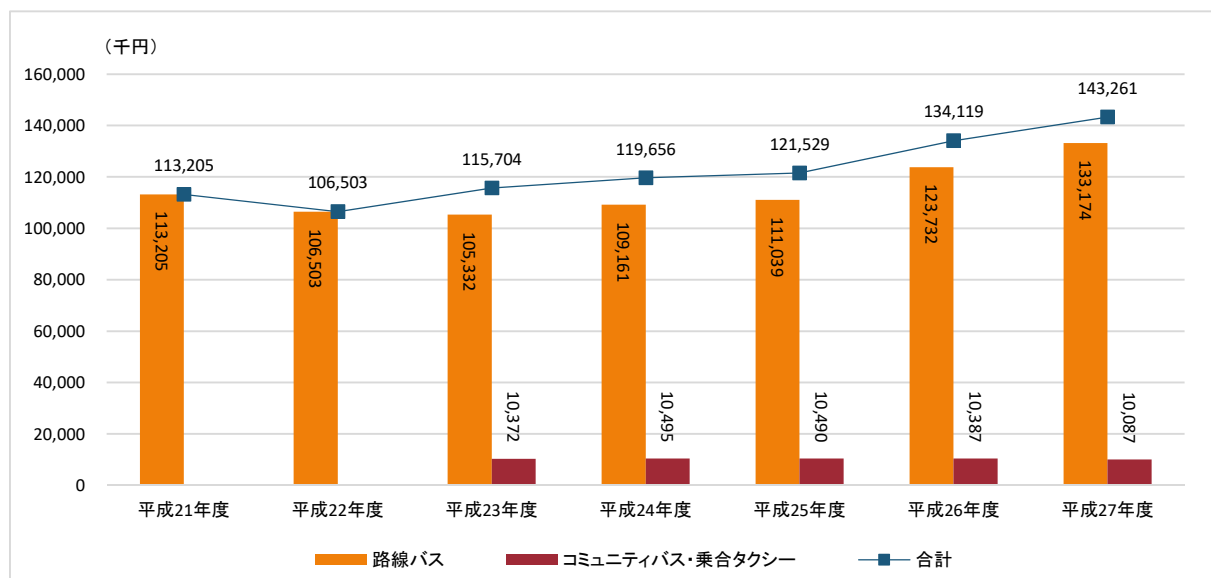
- ・全体的に平日よりも休日の新幹線利用者が多い。
- ・GW期間中は、他の期間よりも利用者が増加し乗車数よりも降車数が多い。帰省、観光に利用されていると推察される。
- ・同時期の利用者数を比較すると、平成27年7月の利用者よりも平成28年7月の新幹線利用者数が減少している。
- ・年末の降車人数が多いことから、各地から新幹線を利用して市内へ帰省する利用者が多いと推察される。



図：新幹線利用者 各調査日集計  
(出典：市資料)

## (5) 公共交通にかかる補助金額の推移

- ・平成23年度から公共交通にかかる補助金は年々増加しており、平成27年度には、路線バスとコミュニティバス・乗合タクシーへの補助を合わせ1億4千万円以上の補助額となっている。
- ・コミュニティバス・乗合タクシーは平成23年度より補助金を受けて運行している。補助額は1千万円程度で推移している。



図：路線バス及びコミュニティバス・乗合タクシー運行費補助金額実績値推移  
(出典：市資料)

## (6) 公共交通利用促進事業等の状況

- ・糸魚川市で実施している公共交通利用促進事業等は以下の通り。

事業名	対象及び自己負担額	期間	内容
子どもフリーパス	小学生 1,500 円 中学生 3,000 円	6ヶ月	路線バスが乗り放題  注) 遠距離通学児童・生徒に対しては路線バス等の定期券支給
	小学生 510 円 中学生 1,030 円	1ヶ月	
高齢者・障害者 おでかけバス事業	65歳以上で一定の条件を満たす方 障害のある方 3,000 円	6ヶ月	路線バスが乗り放題
	同上 1,030 円	1ヶ月	
高齢者おでかけ支援タクシー券交付事業	70歳以上で一定の条件を満たす方 4,000 円	1年間	タクシー運賃の一部助成
障害者交通費助成事業	障害の程度や通所作業所までの距離により年間 6,000 円～24,000 円	1年間	タクシー券交付
その他利用促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス教室（「園児」、「小学生」、「大人のバス教室」など）</li> <li>・ワンコインバス（期日限定 100 円均一運賃）</li> <li>・路線バス啓発・利用促進資料「みんなでバスにのるまいか～」</li> <li>・路線バス出張サロン「よるまいか～」</li> </ul>		

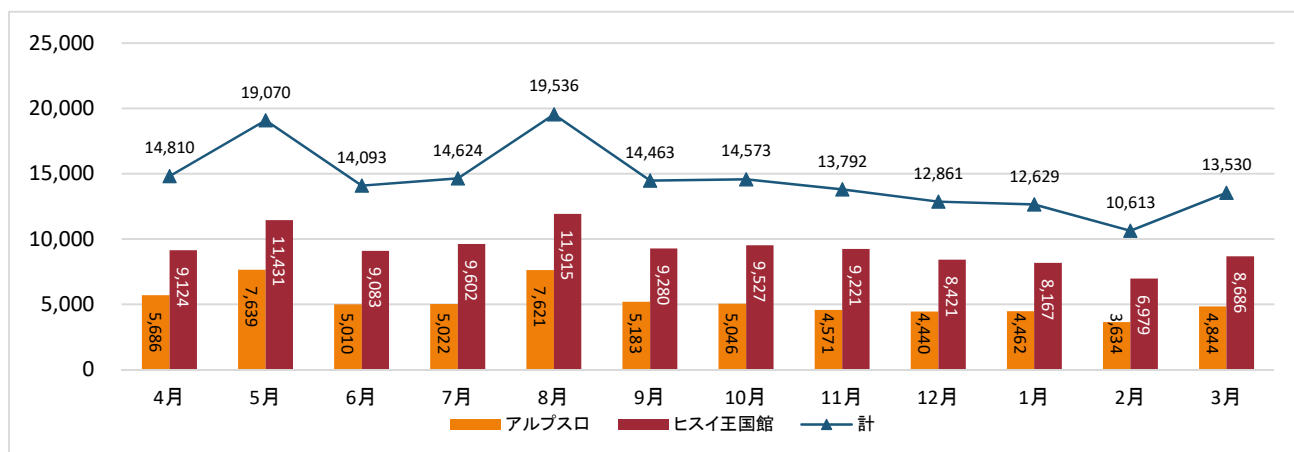
(7) 交通関連施設・観光等・その他

① 駅駐車場概要及び利用状況

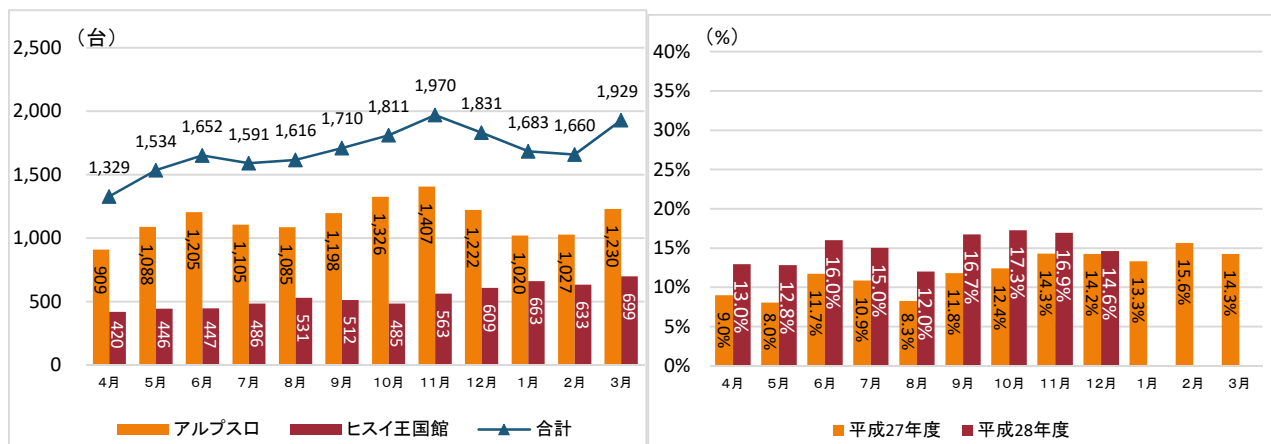
- ・糸魚川駅に接続する駐車場は「糸魚川駅アルプス口駐車場」、「ヒスイ王国駐車場」の2ヶ所である。北陸新幹線利用者に対して「新幹線パーク&ライド」サービスにより、新幹線利用割引が適用される。
- ・平成27年度の駅駐車場利用はアルプス口よりもヒスイ王国館利用が多い。
- ・駐車場利用にあたり、新幹線利用者は割引が適用される。新幹線割引利用者数は、平成27年度よりも平成28年度の方が多傾向にある。

表：糸魚川駅駐車場最大駐車台数、サービス内容  
(出典：JR西日本HP、市HP)

駐車場名	最大駐車台数	新幹線利用によるサービス内容	パーク&ライド予約の有無
糸魚川駅アルプス口駐車場	118台	最大4日間無料	不要
ヒスイ王国駐車場	172台	最大4日間無料	不要



図：平成27年度駅駐車場月別利用者数  
(出典：市資料)

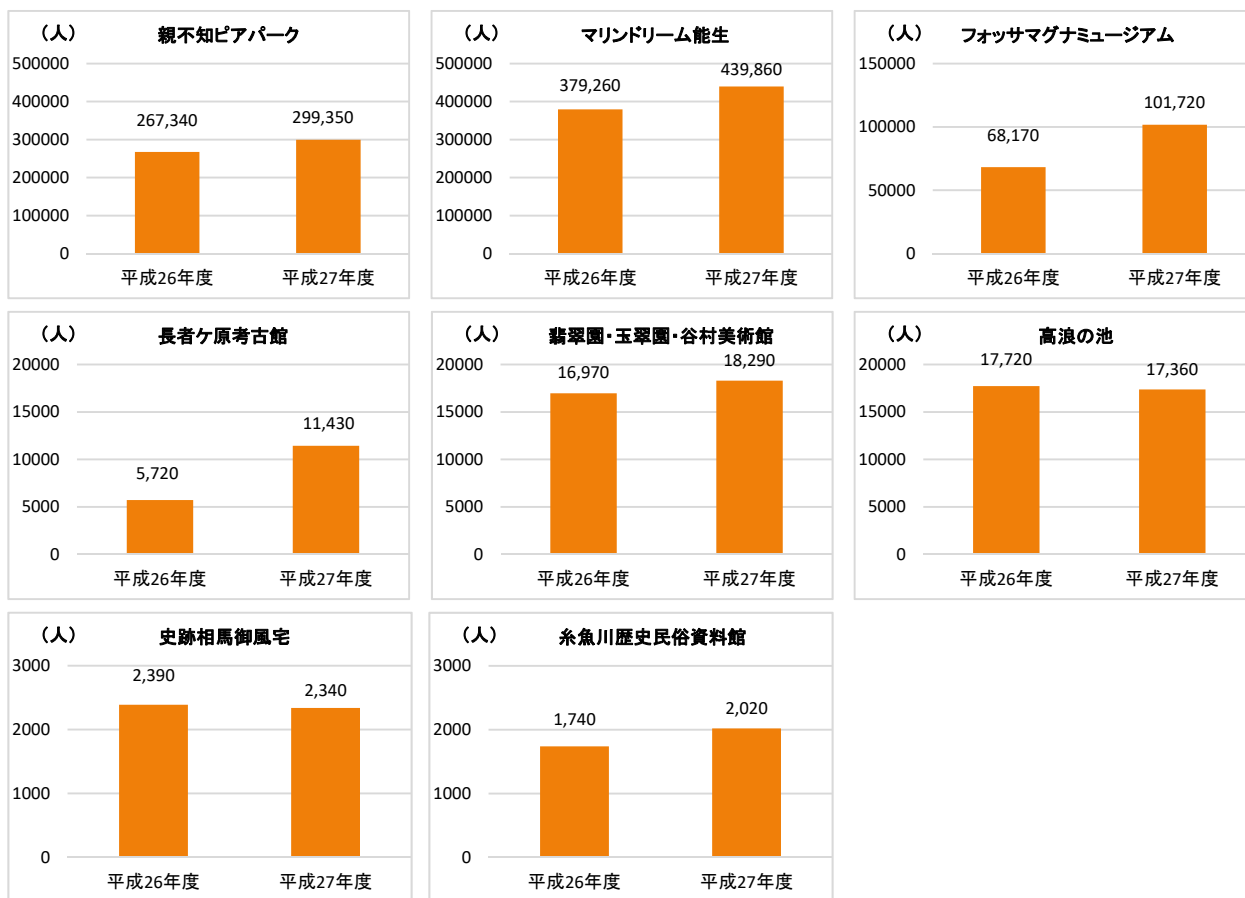


図：平成27年度 駅駐車場利用の新幹線利用割引台数  
(出典：市資料)

図：駅駐車場利用の新幹線利用割引利用割合  
(出典：市資料)

### ② 観光入込客数の推移

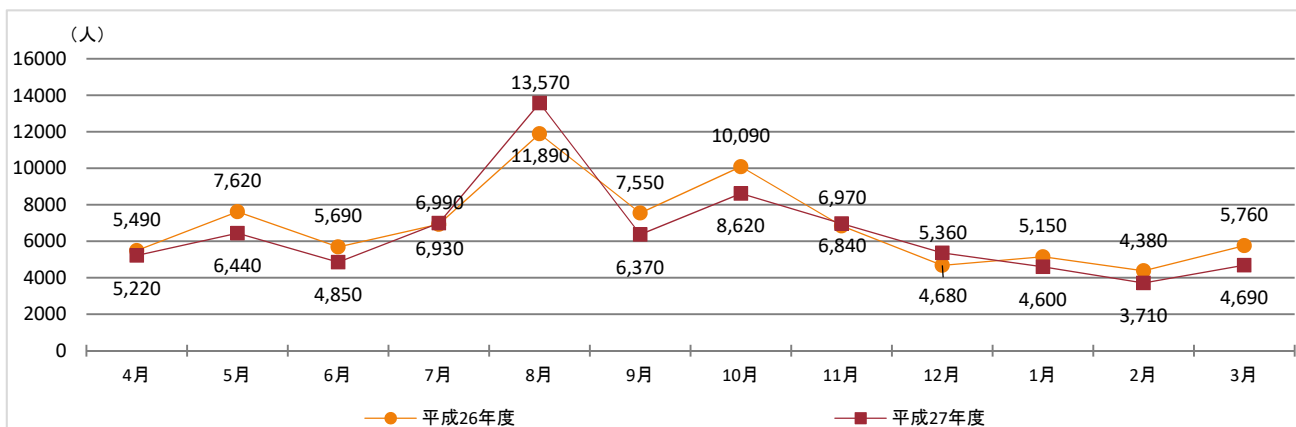
- ・各施設への観光客は、高浪の池を除き平成26年度より平成27年度の方が増加している。
- ・高浪の池は平成26年よりも300人程度減少している。



図：平成27年度 観光入込客数の前年対比  
(出典：市資料)

### ③ 宿泊客数客数の推移

- ・宿泊客数の総数は平成26年度より平成27年度の方が減少している。
- ・前年との月別で比較すると、8月、12月は平成26年度よりも増加しているものの、他の月では宿泊客数が減少している。

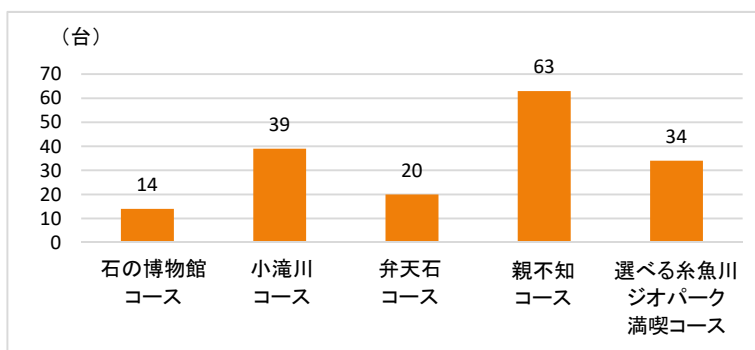
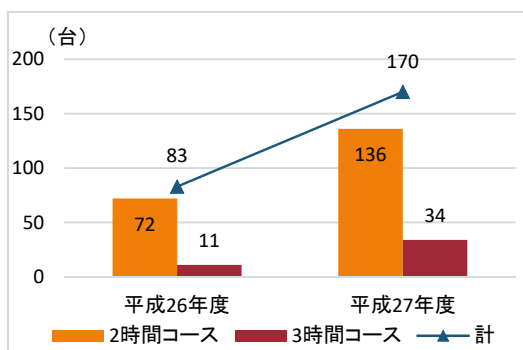


図：平成27年度 宿泊客数の前年対比  
(出典：市資料)

④ 駅から観タクン利用実績

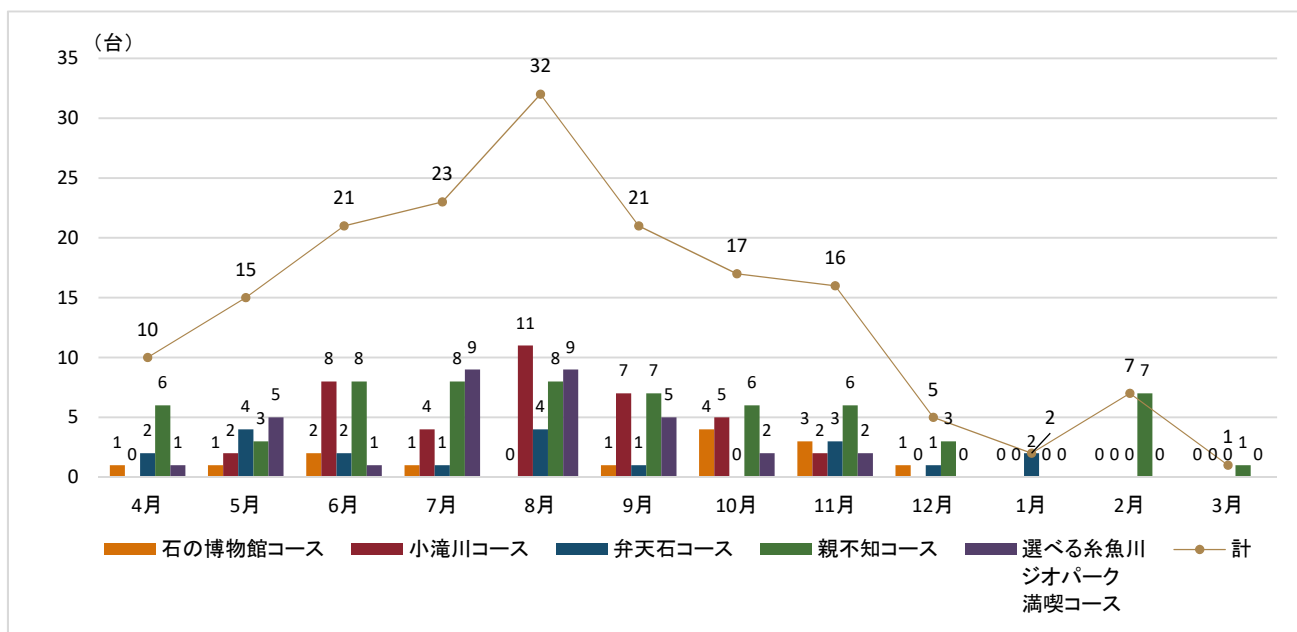
- ・平成27年度の駅から観タクン利用者数は、2時間コース、3時間コースともに平成26年度より増加した。
- ・目的地別では、親不知コース利用者が最も多く63台、次いで小滝川コース、選べる糸魚川ジオパーク満喫コースの順である。
- ・月別利用者数では8月の利用客が最も多い。夏休みを利用した観光客が多いと推察される。
- ・月別の観光客数をみると親不知への観光客は1月を除き、観光客が訪れている。

駅から観タクン 設定コース名	所要時間	料金
石の博物館と庭園・美術館巡りコース	2時間	6,200円
小滝川ヒスイ峡と高浪の池を巡るコース	2時間	6,200円
弁天岩、白山神社、マインドルーム能生を巡るコース	2時間	6,200円
親不知コミュニティロード、親不知記念広場と親不知ピアパークを巡るコース	2時間	6,200円
選べる糸魚川ジオパーク満喫コース	3時間	9,300円



図：観タクン利用実績  
(出典：市資料)

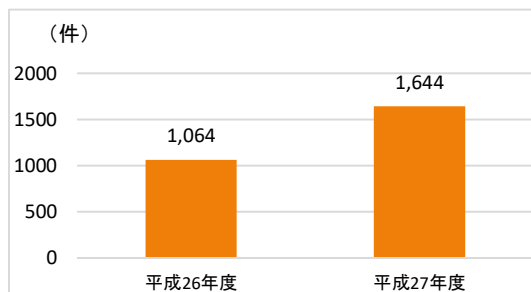
図：平成27年度 観光地別観タクン利用実績  
(出典：市資料)



図：平成27年度 月別観タクン利用実績  
(出典：市資料)

### ⑤ レンタカー利用件数

- ・平成27年度の市内レンタカー利用件数は、平成26年度より約1.6倍に増加した。
- ・平成28年度は利用促進としてレンタカー乗捨て無料の取組「駅レンタカー乗り捨てパス」を行っている。実施時期は4月1日～12月27日であり、糸魚川営業所を発着とする予約を対象としている。



図：レンタカー利用件数の推移  
(出典：市資料)

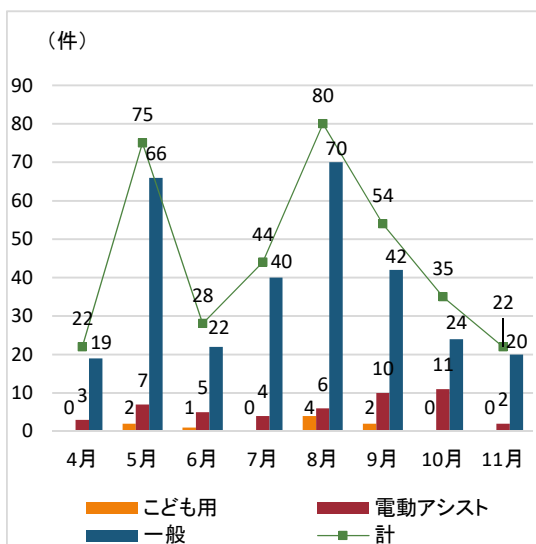


○平成28年度レンタカー乗捨て無料の取組概要  
 期間...4月1日～12月27日  
 条件...糸魚川営業所発着限定  
 対象営業所...上越妙高、飯山、信濃大町、長野、松本、黒部宇奈月温泉、富山、新高岡

図：駅レンタカー乗り捨てパス チラシ  
(出典：糸魚川市観光ガイド、市資料)

### ⑥ レンタサイクル利用件数

- ・平成27年度の市内レンタサイクルの貸し出し件数は8月が最も多く80件、次いで5月75件。春の行楽シーズンの5月や海水浴客等が利用する8月に利用が多いと考えられる。9月～11月の秋の行楽シーズンは、利用客は徐々に減少する。



図：レンタサイクル利用件数の推移  
(出典：市資料)



- ・利用時間...9時～17時
- ・利用期間...平成27年4月1日～11月30日  
(冬季は自転車の貸出は行っていない)
- ・受付窓口  
伊藤商会、糸魚川ジオステーションジオパル内観光案内所  
マリンドリーム能生

図：レンタサイクル受付場所糸魚川駅周辺位置図  
(出典：レンタサイクルマップ)



⑦ 既存アンケート結果

●高齢者生活調査（平成25年実施）におけるアンケート

調査地域	市内全域
調査対象	75歳以上のみの高齢者で構成される世帯の内抽出した1004世帯
抽出方法	地域を考慮して抽出
調査方法	市職員の対象世帯訪問による聞き取り調査
※注釈	SA：単数回答（一つに回答）、MA：複数回答（あてはまるすべてに回答）

外出について

- ・外出に関しては「(外出) している」が93.6%、「(外出) していない」が6.4%。
- ・「(外出) している」と回答したうち、外出手段で最も多いのは「路線バス」25.8%、次いで「自分が運転する車」23.1%。
- ・「(外出) していない」理由としては、「身体が不自由なため」が51.3%、「外出する用事がない」22.4%、「交通手段がないため」が15.8%。
- ・路線バスを利用しない理由として最も多いものは「路線バス以外に便利な交通手段がある」で60.9%。次いで「バスの段差がきつくて乗り降りできない」が10.1%。「利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか」は「利用しない」が約8割。

車やバスで外出していますか。(SA)

回答	回答数	割合
している	940	93.6
していない	64	6.4
合計	1004	100.0

⇒外出している方

外出手段 (MA)	回答数	割合
自分が運転する車	323	23.1
同居の家族が運転する車	103	7.4
別居の家族が運転する車	179	12.8
バイク	45	3.2
路線バス	361	25.8
電車	40	2.9
タクシー	179	12.8
近所の人の車	36	2.6
その他	131	9.4
合計	1397	100.0

⇒外出していない方

なぜ外出しないのか (SA)	回答数	割合
身体が不自由なため	39	51.3
家族・医師に止められているため	2	2.6
交通手段がないため	12	15.8
外出する用事がない	17	22.4
その他	6	7.9
合計	76	100.0

路線バスを利用していない方

路線バスを利用していない理由 (MA)	回答数	割合
路線バス以外に便利な交通手段がある	277	60.9
居住地域には路線バスが運行していない	9	2.0
最寄りのバス停まで遠い	39	8.6
利用しやすい時間帯の路線バスがない	29	6.4
バスの段差がきつくて乗り降りできない	46	10.1
バスの利用方法がわからない	8	1.8
その他	47	10.3
合計	455	100.0

利用しやすい時間帯に路線バスが運行

利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか (SA)	回答数	割合
利用する	65	21.3
利用しない	240	78.7
合計	305	100.0

**通院について**

- ・「病気で通院していますか」について、「はい」の回答が93.6%、「いいえ」の回答が6.4%。
- ・通院先は糸魚川総合病院が38.6%、市外の病院へ通院している方が9.2%。
- ・通院回数の回答が最も多いのは「月1回」、次いで「月2～3回」。「月1～3回」通院していると回答した人は全体の71.0%。

現在病気で通院していますか

(軽いけが、歯医者を除く) (S A) 回答数 割合

	回答数	割合
はい	940	93.6
いいえ	64	6.4
合計	1004	100.0

はいと回答した方

通院先はどちらですか (M A)

	回答数	割合
糸魚川総合病院	468	38.6
糸魚川総合病院以外の市内医療機関	634	52.3
市外の医療機関	111	9.2
合計	1213	100.0

通院の回数がどれぐらいですか

すべての医療機関の受診回数 (S A) 回答数 割合

	回答数	割合
月4回以上	66	7.0
月2～3回	257	27.3
月1回	411	43.7
2ヶ月に1回程度	125	13.3
3か月に1回程度	47	5.0
その他	34	3.6
合計	940	100.0

**●北陸新幹線開業・市制10周年及び広報事業に関する糸魚川市民アンケート調査 (平成25年実施)**

調査地域 市内全域  
 調査対象 18歳以上の市民 3000人  
 抽出方法 無作為に抽出  
 調査方法 郵送による配送・回収  
 回収率 42.9%

**問 糸魚川駅の新幹線利用者数増加のために必要なこと**

- ・観光振興や魅力的な施設の設置が回答の大半を占めている。「駐車場やバス、タクシーなど交通利便性の向上」を回答した方は16.9%である。
- ・その他の回答には二次交通に関する意見が11件、駅周辺の駐車場整備に関する意見が8件挙げられている。その他の回答全体の25%を占める。

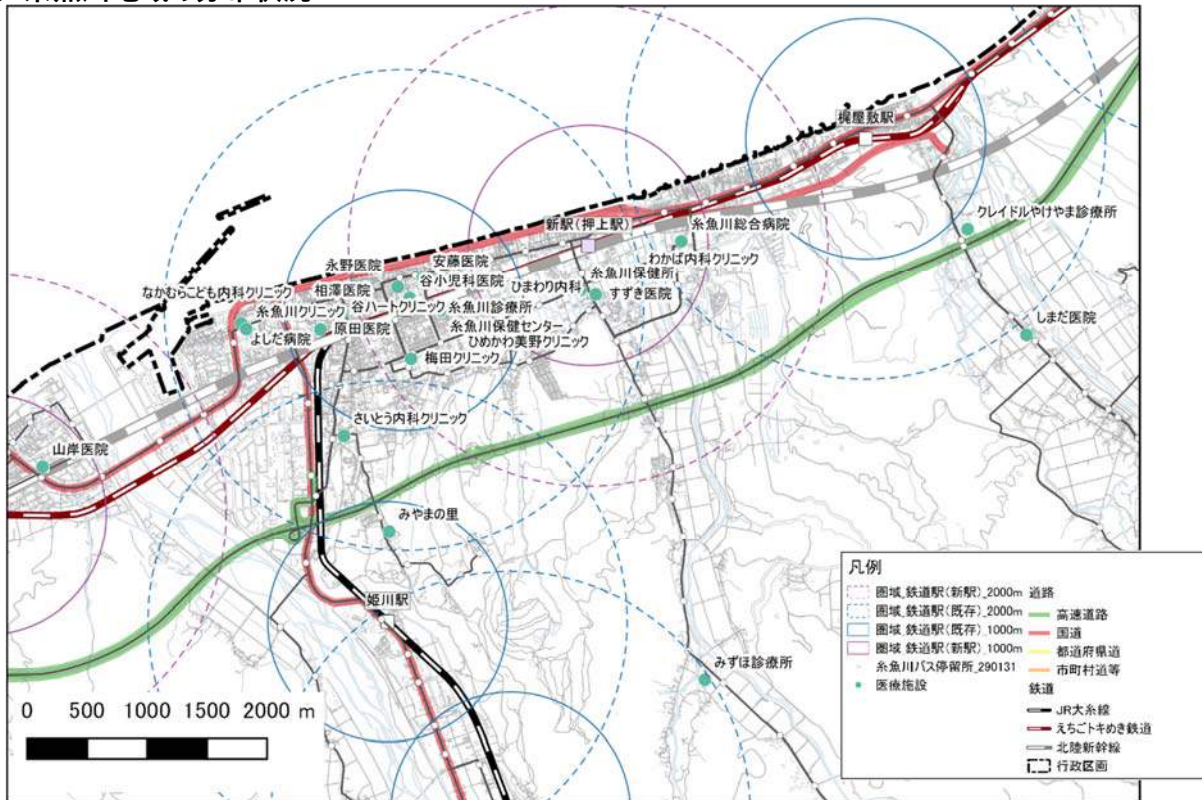
北陸新幹線糸魚川駅での乗客数を増やすためには、何が必要だと思いますか (M A) 回答数 割合

	回答数	割合
糸魚川駅を中心とした魅力的な施設	560	23.0
駐車場やバス、タクシーなど交通利便性の向上	411	16.9
地場産業など経済・産業振興	361	14.8
ジオパーク、豊かな自然や新鮮な食べ物などを活かした観光振興	858	35.3
文化、人などを生かした交流拡大	167	6.9
その他	76	3.1
計	2433	100.0

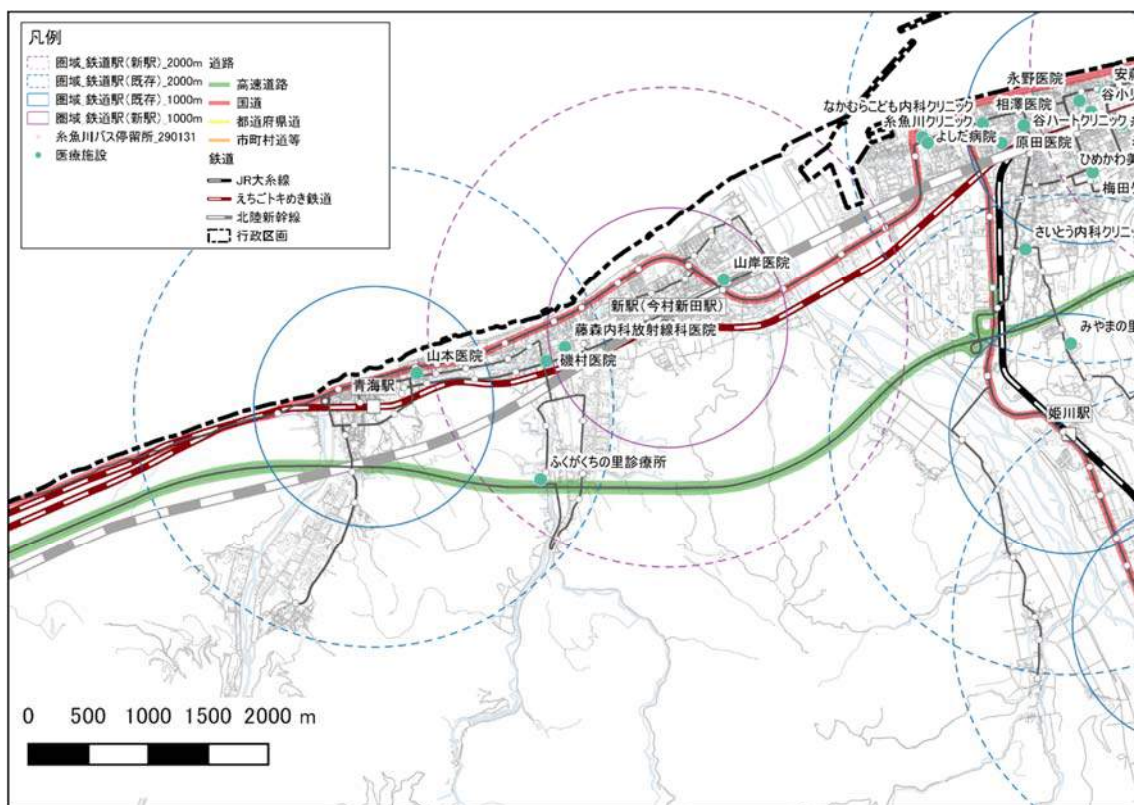
# 4. 都市機能の分布状況

## (1) 医療施設

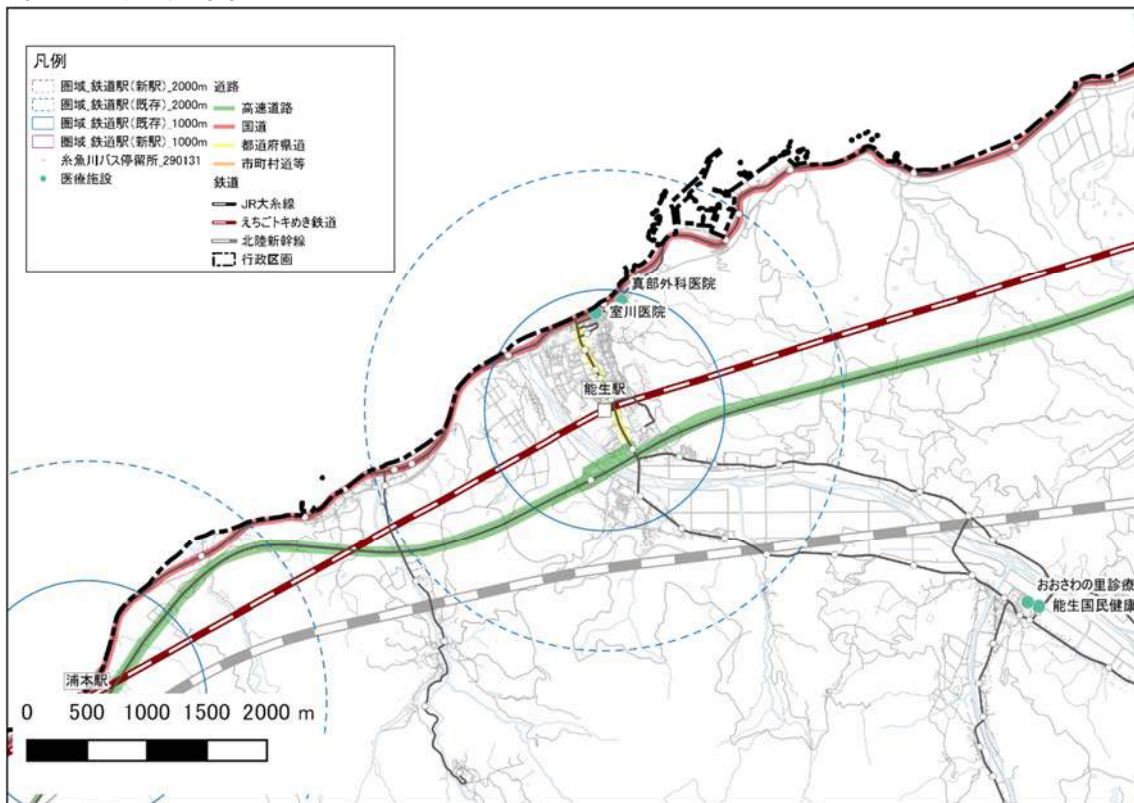
### ① 糸魚川地域の分布状況



### ② 青海地域の分布状況

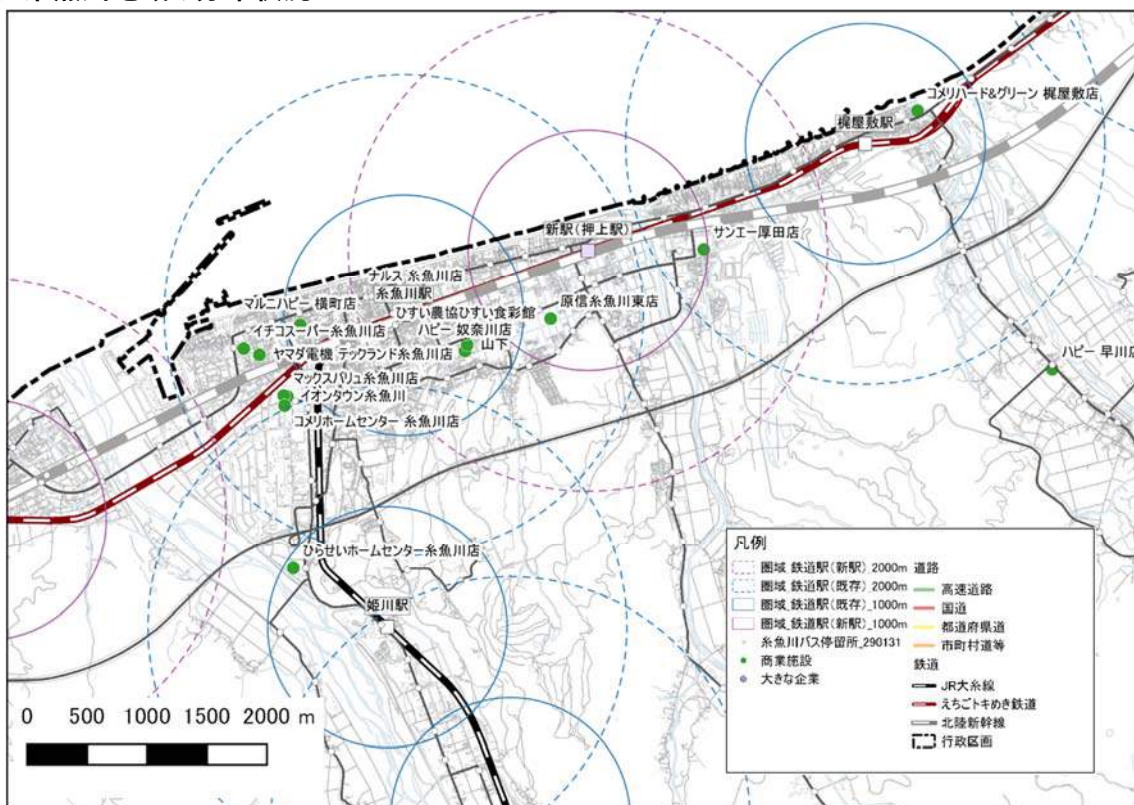


③ 能生地域の分布状況

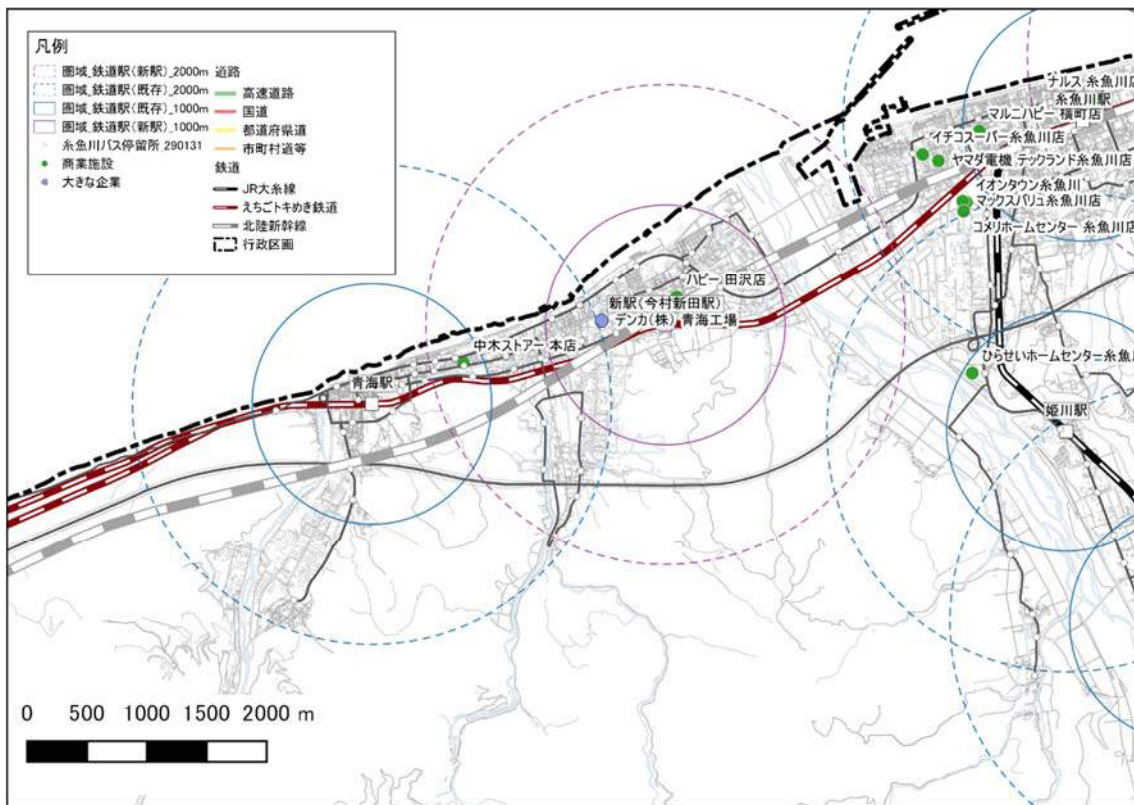


(2) 商業施設

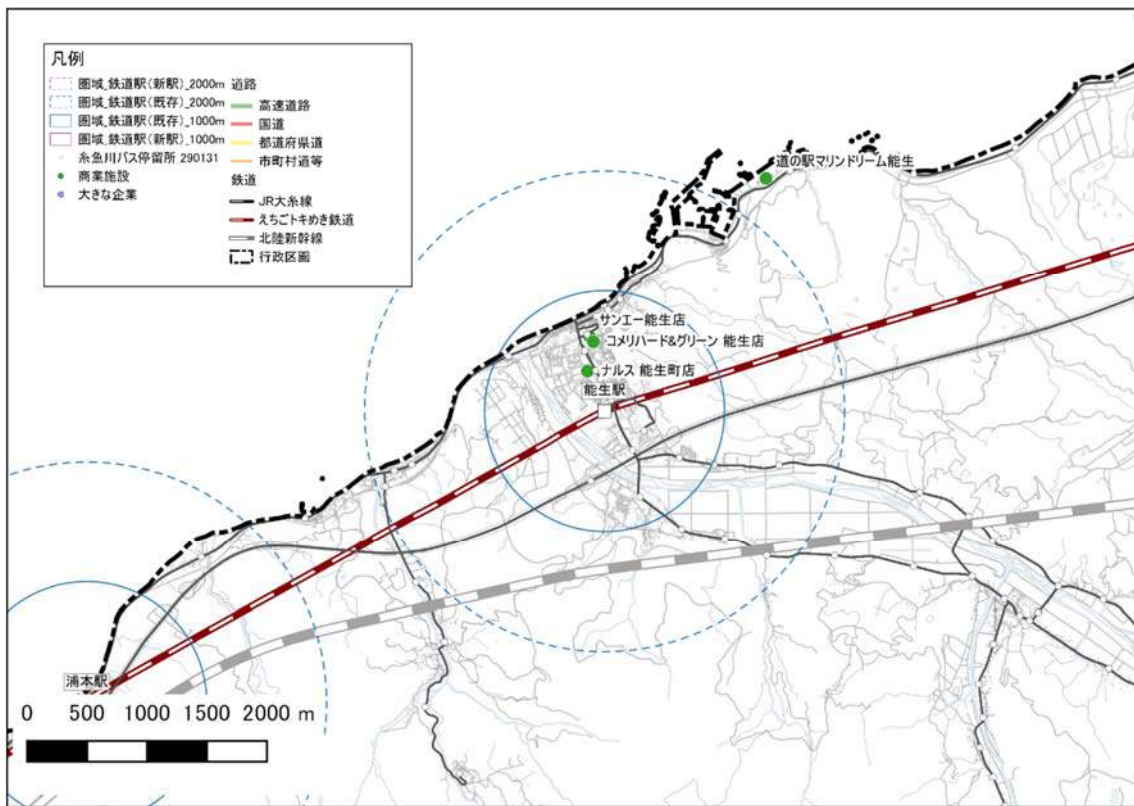
① 糸魚川地域の分布状況



② 青海地域の分布状況

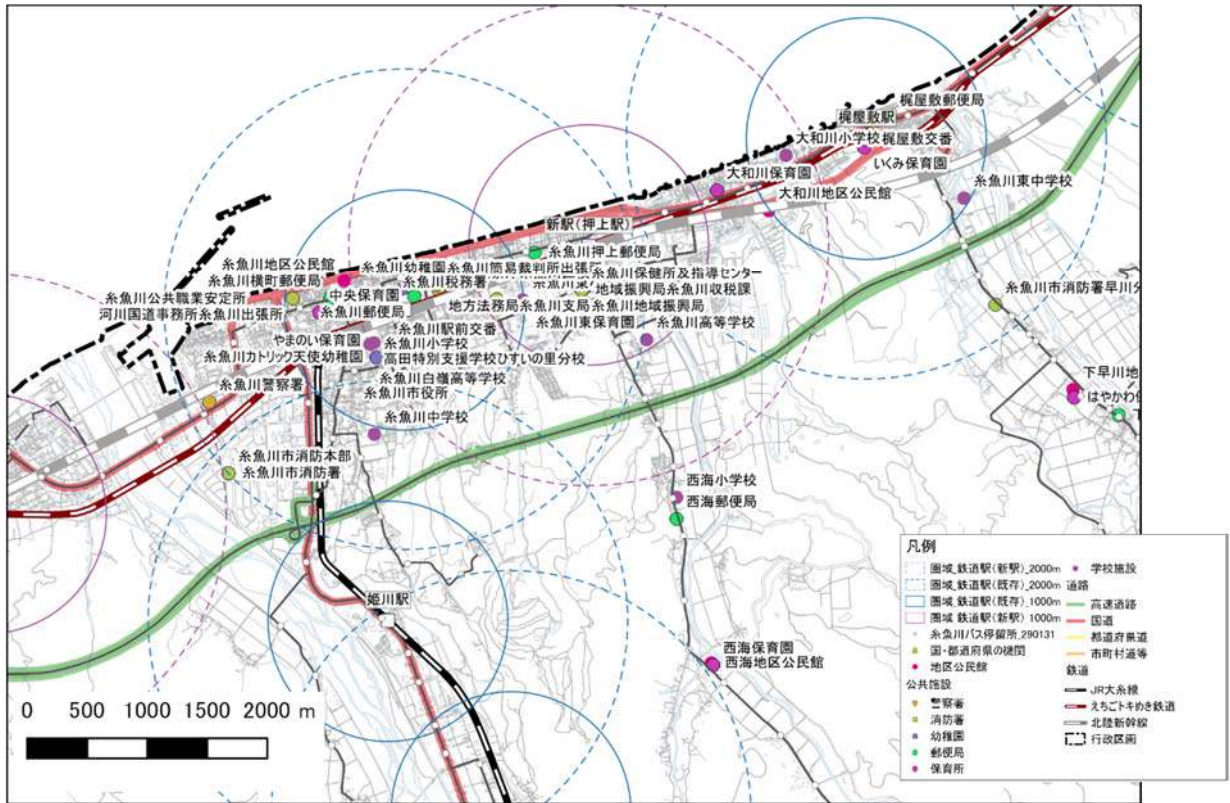


③ 能生地域の分布状況

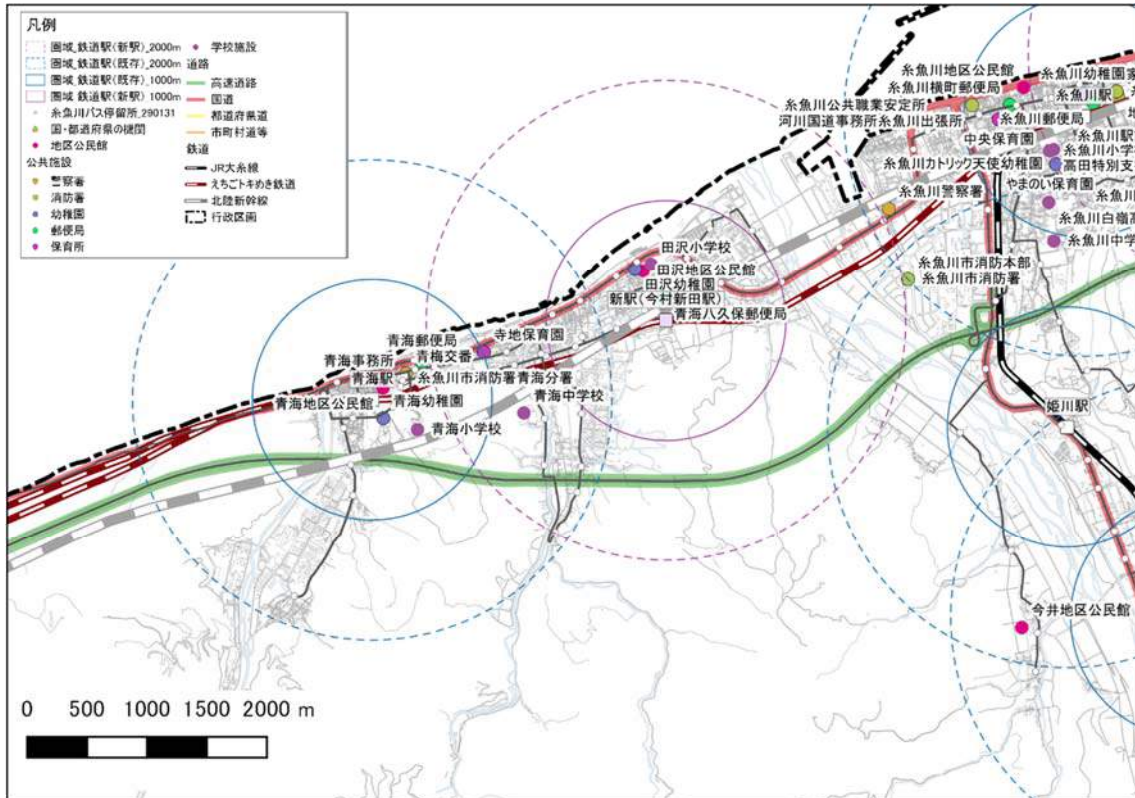


### (3) 公共施設

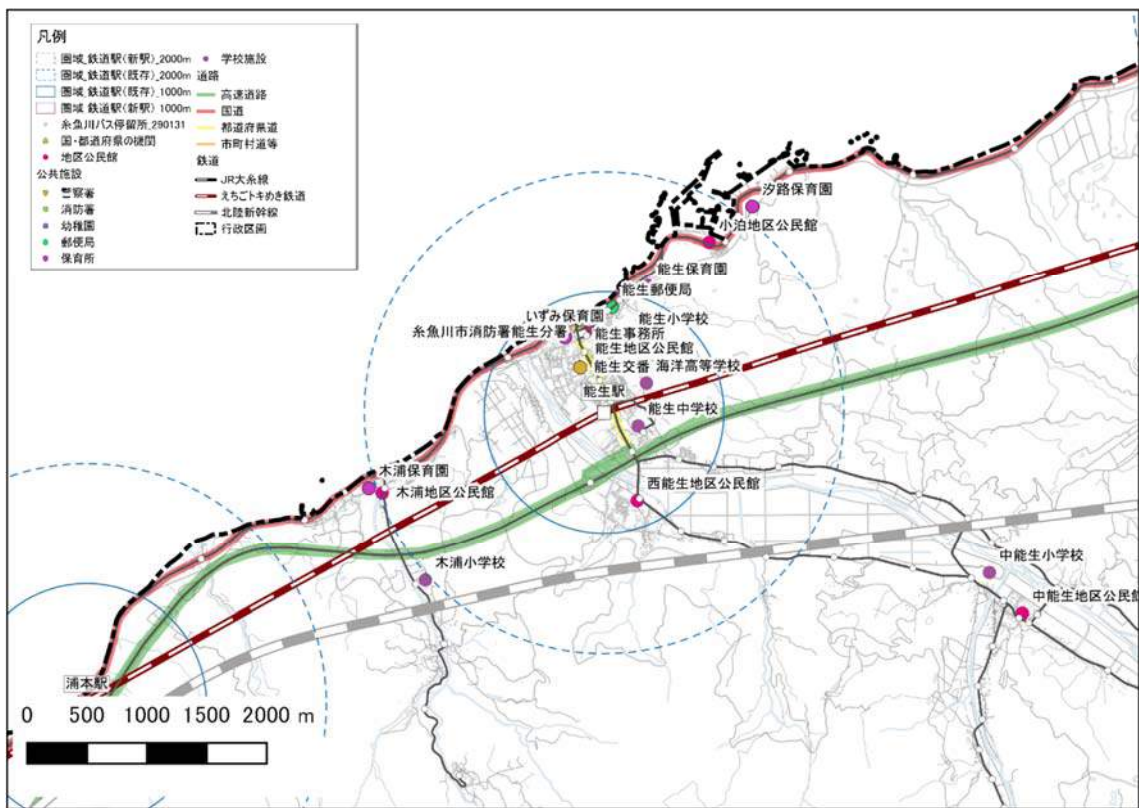
#### ① 糸魚川地域の分布状況



#### ② 青海地域の分布状況

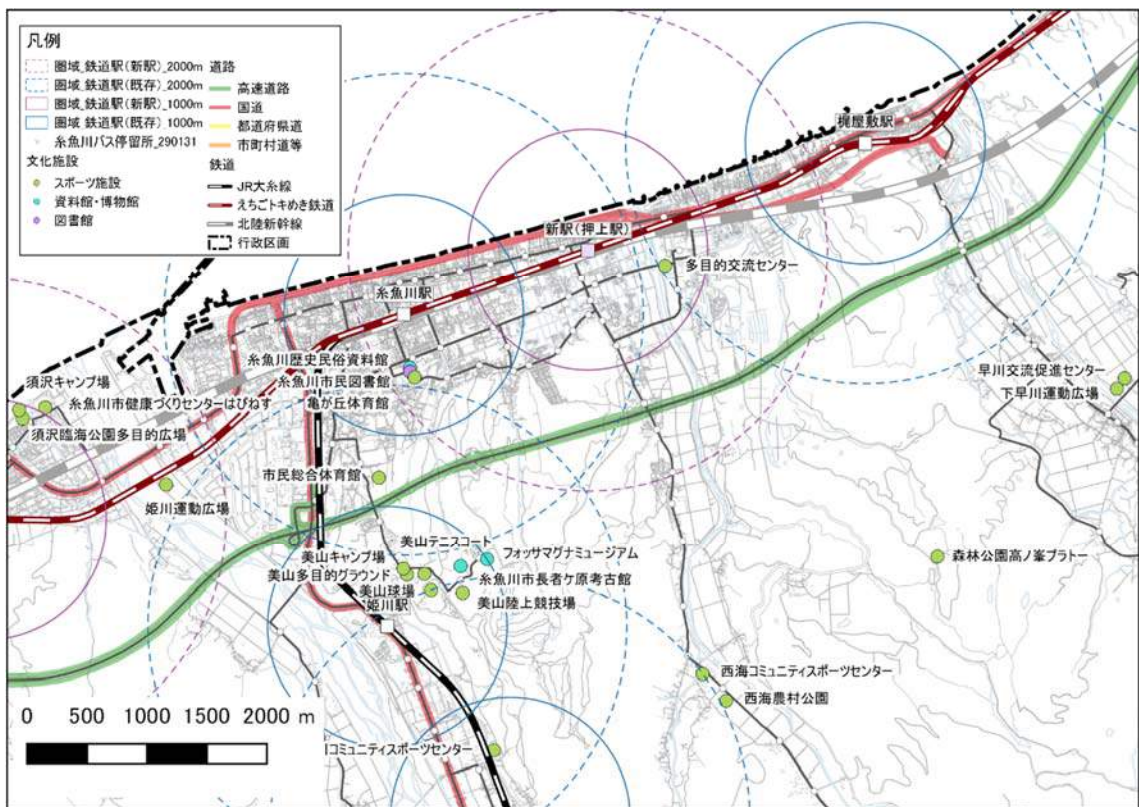


③ 能生地域の分布状況

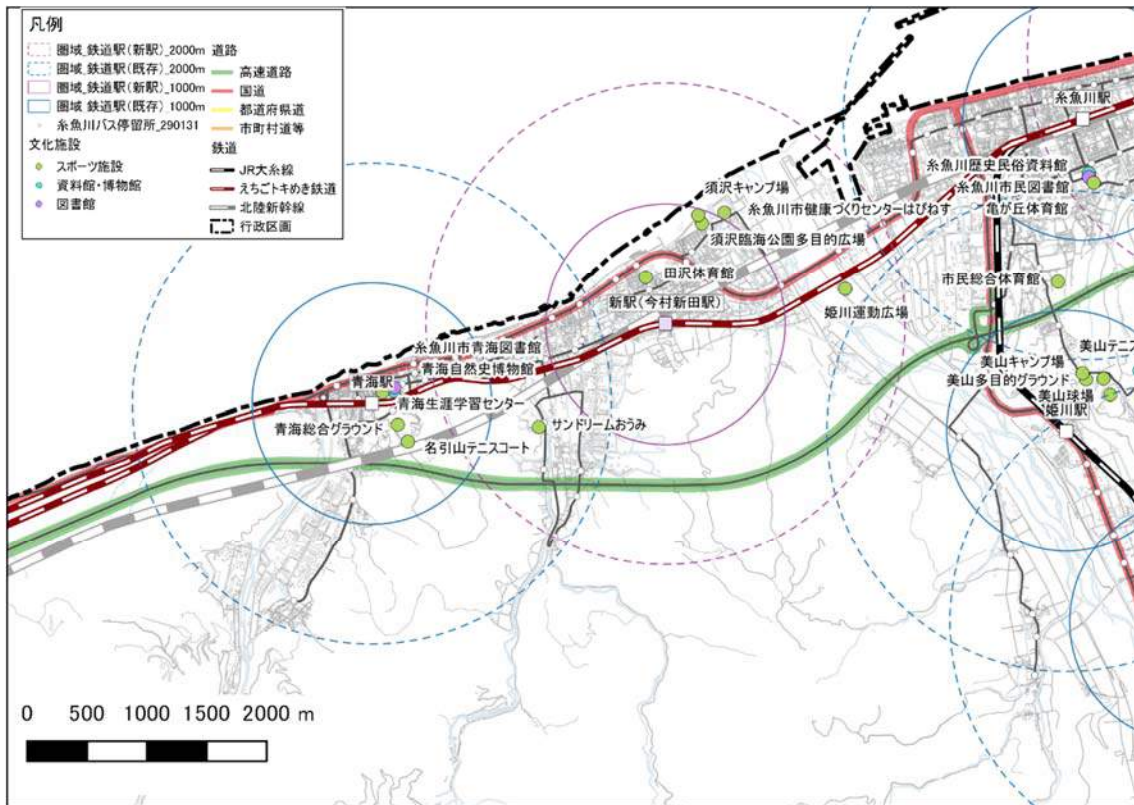


(4) 文化施設

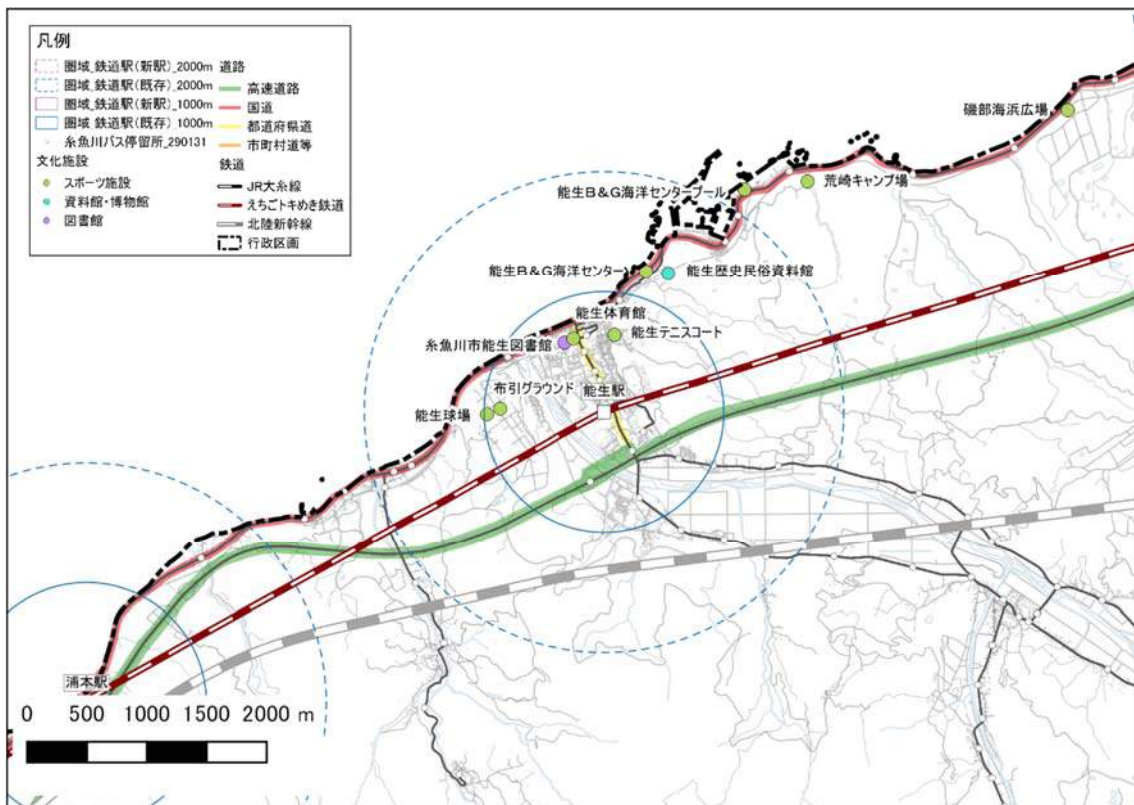
① 糸魚川地域の分布状況



② 青海地域の分布状況



③ 能生地域の分布状況



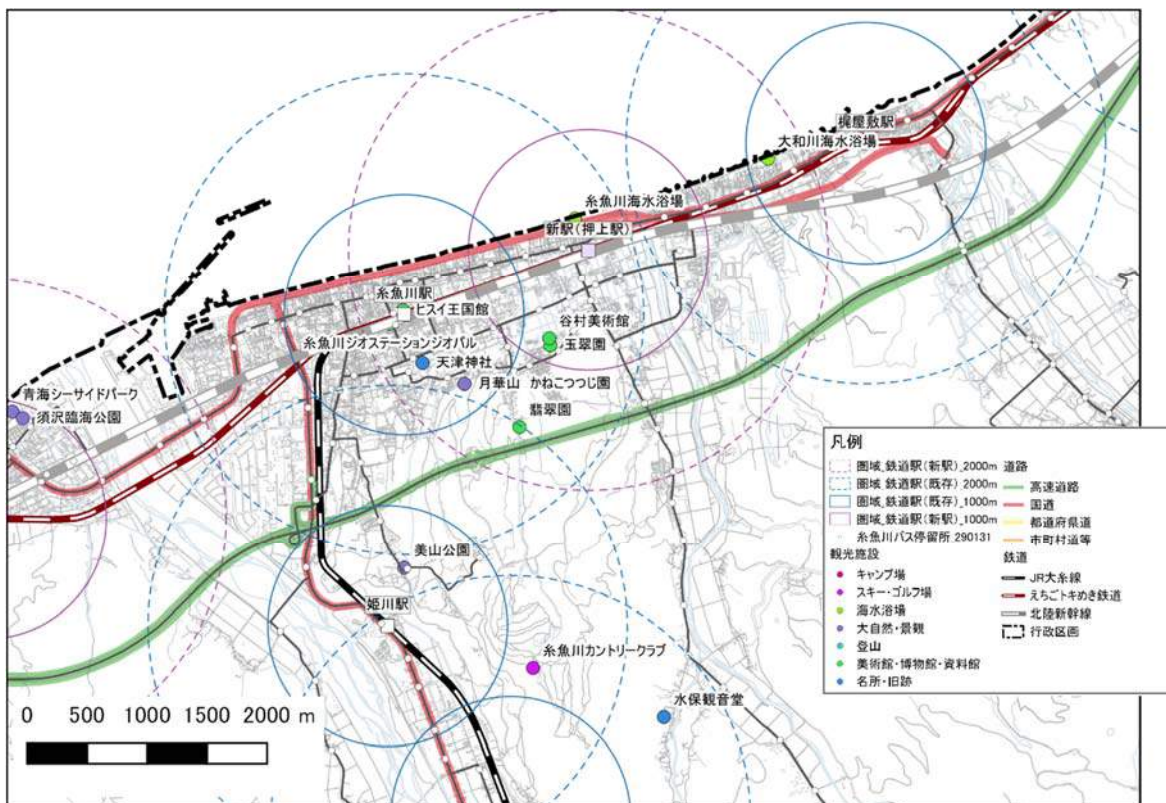


(5) 観光施設

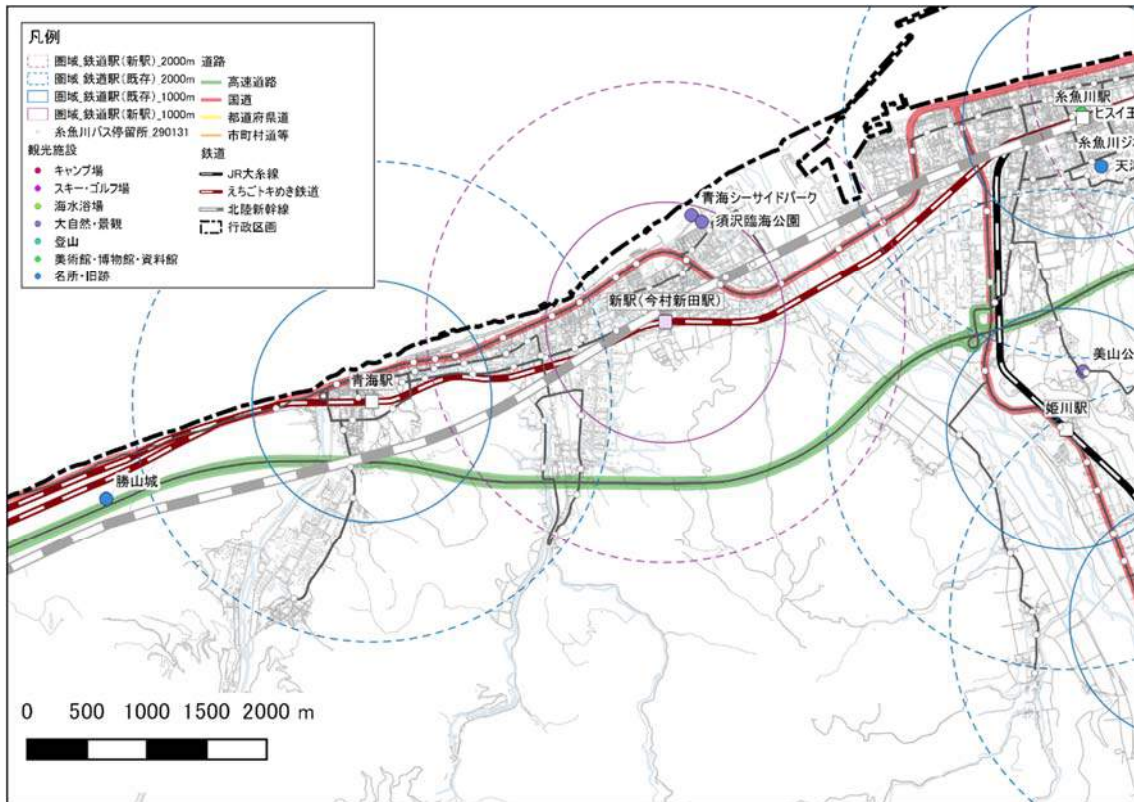
① 糸魚川ユネスコ世界ジオパークのジオサイトの位置



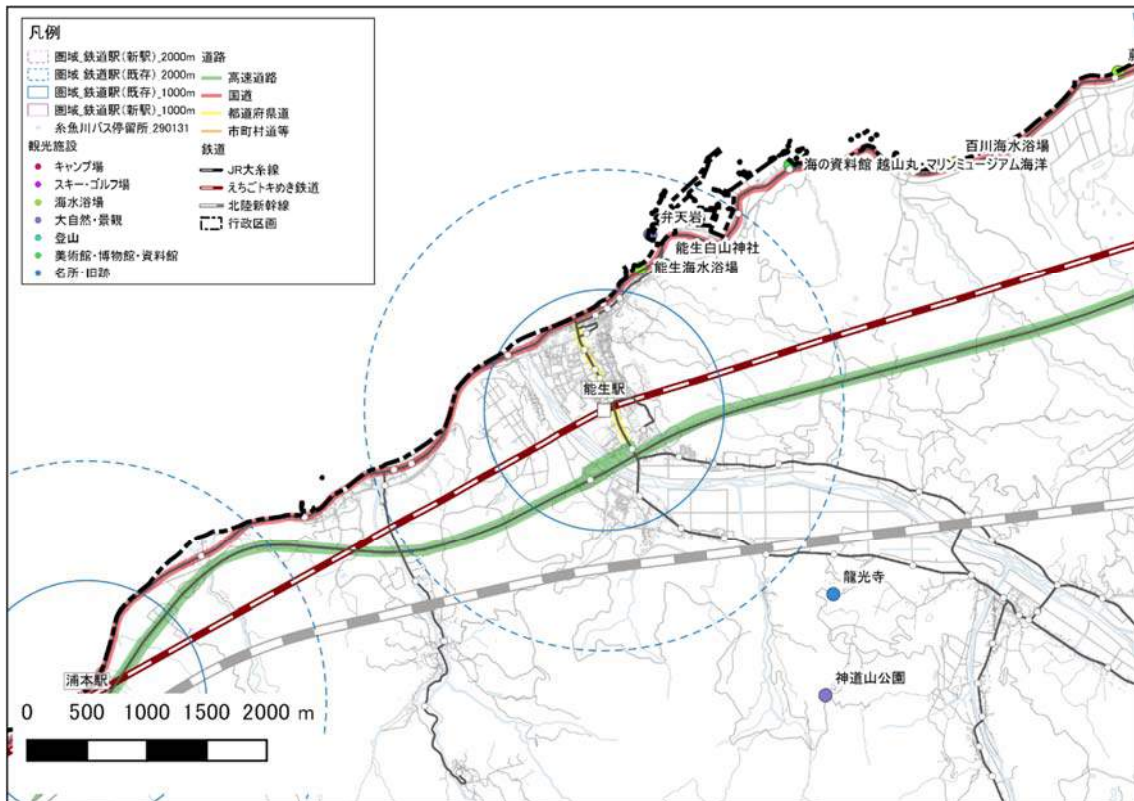
② 糸魚川地域の分布状況



③ 青海地域の分布状況



④ 能生地域の分布状況



## 5. 公共交通人口カバー率

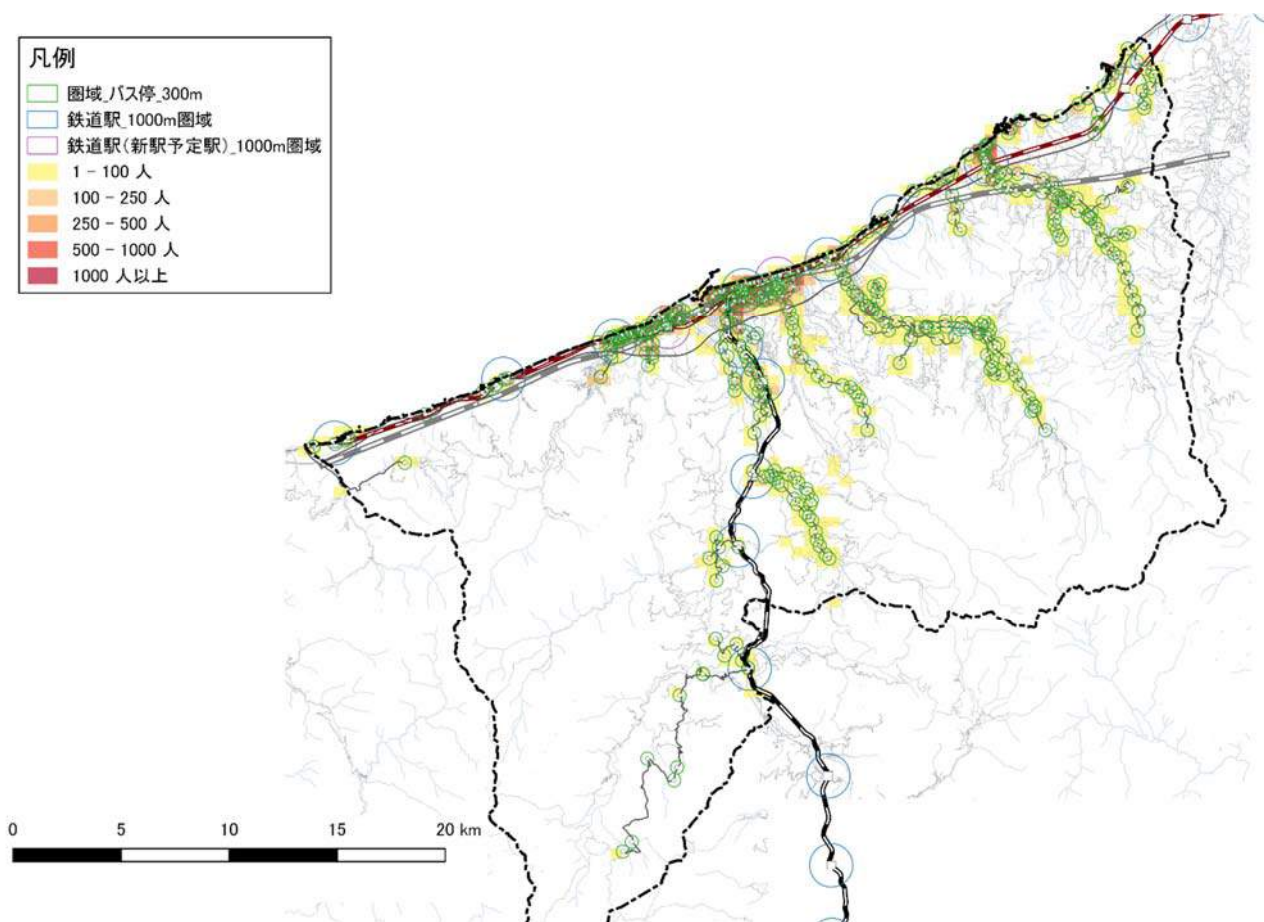
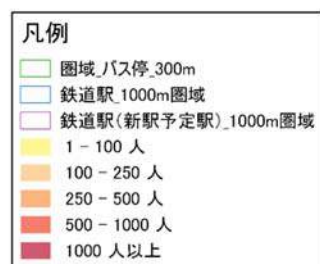
鉄道駅から1000m、バス停から300mを公共交通利用圏域として設定し、この圏域が市内人口をどの程度カバーしているかを算出した。

算出にあたり、平成28年12月時点の公共交通ネットワークを用い、市内人口の分布データは平成22年国勢調査結果を用いた。国勢調査の各メッシュの重心点を取り、重心点が公共交通利用圏域に含まれるかどうかでカバーされた人口を算出している。

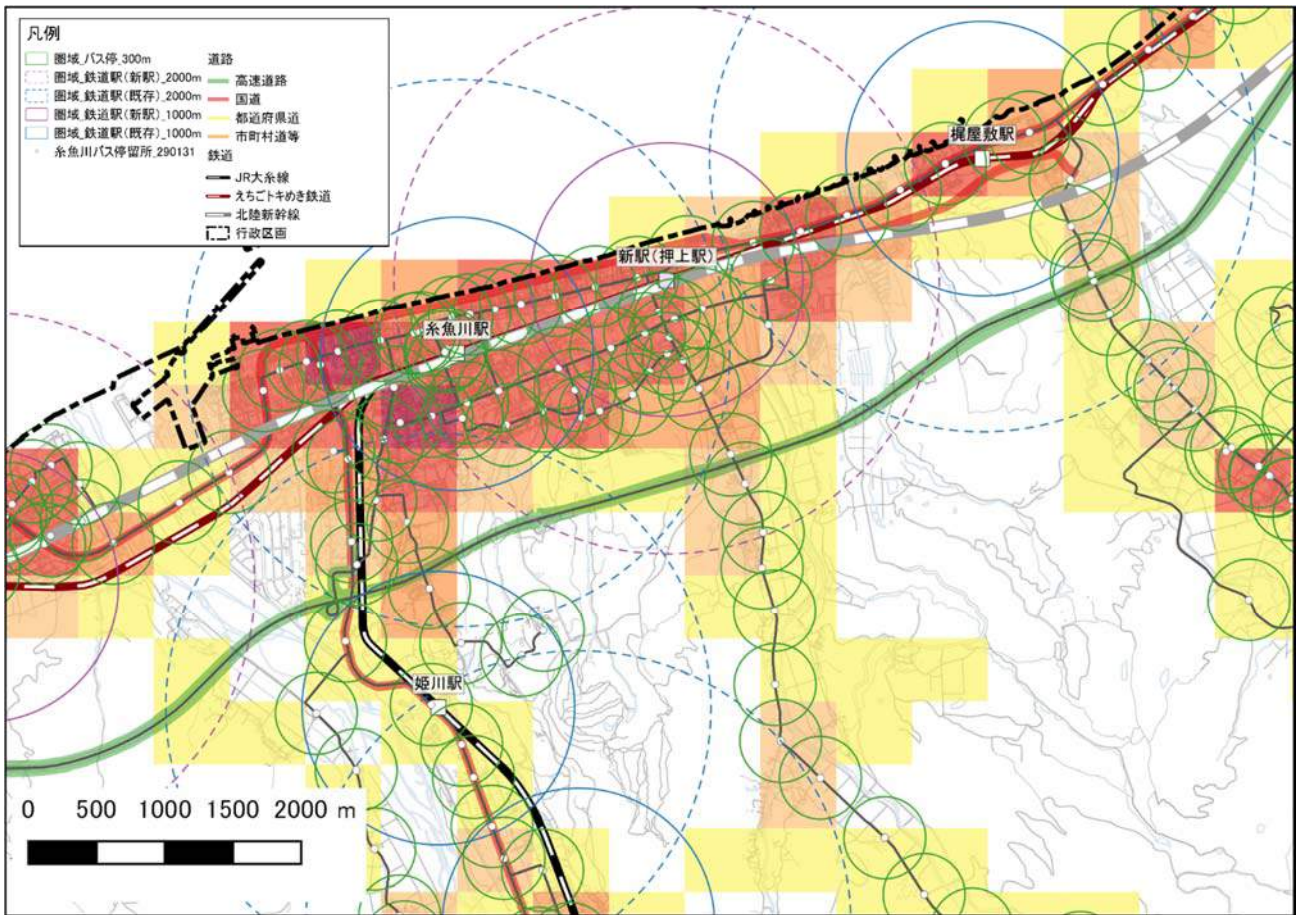
糸魚川市の公共交通人口カバー率は92.6%となった。山間部等一部にカバーされていないエリアはあるものの、すでに市内の大部分が公共交通を利用できる状態であるといえる。

仮に現在の公共交通ネットワークのまま、えちごトキめき鉄道の新駅が設置された場合は、約1%程度向上し93.6%となる見込みである。

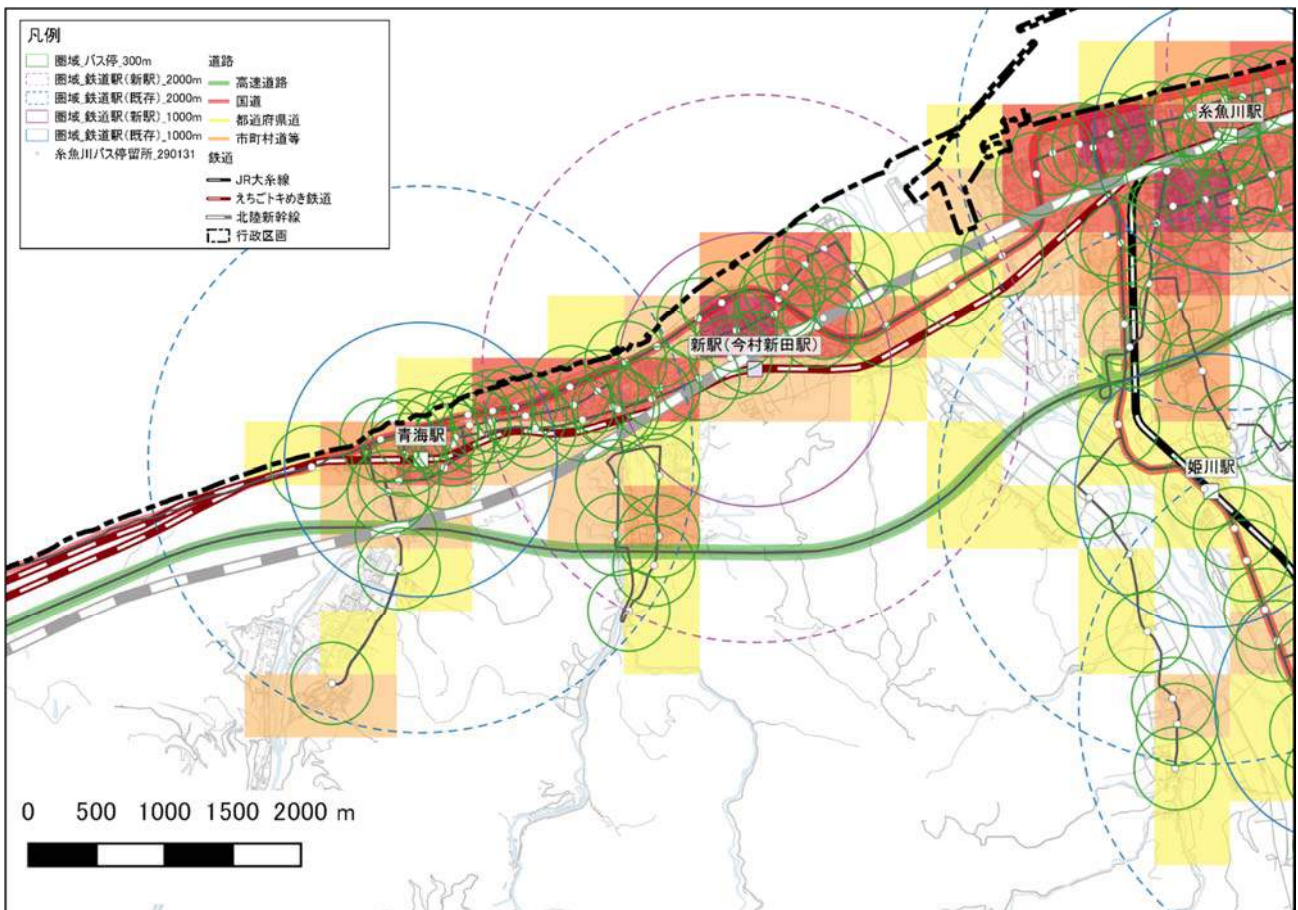
### ① 市全域の状況



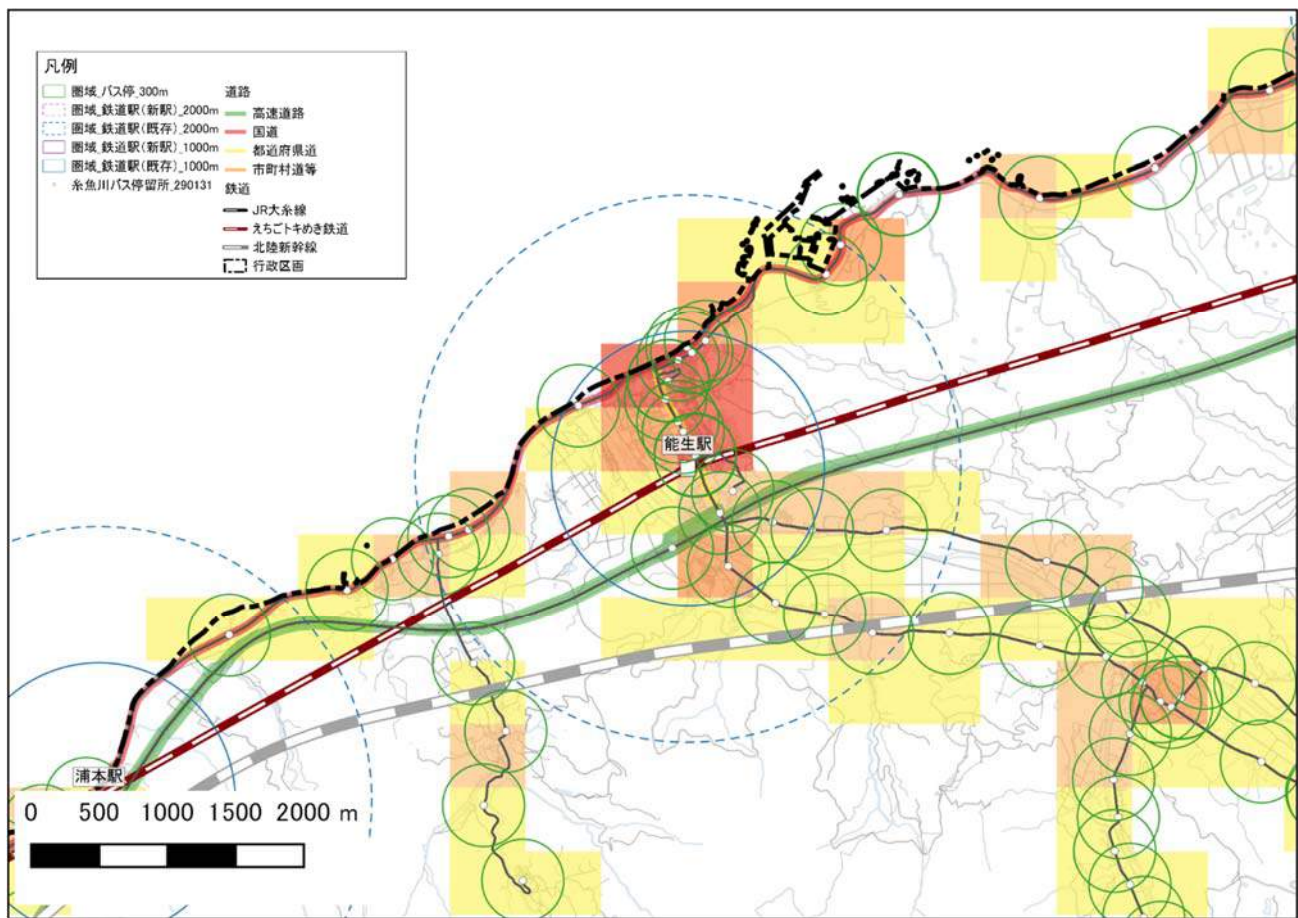
② 糸魚川地域の状況



③ 青海地域の状況



④ 能生地域の状況



## 6. 現況の総括

### (1) 市の概況

- ・平成 27 年の国勢調査速報値によると糸魚川市内の人口は 44,161 人であり、平成 22 年から 3,541 人減少している。人口ビジョンの推計からも長期的な人口減少が見込まれている。
- ・年齢別にみると、0～14 歳の年少人口及び 15～64 歳の生産年齢人口は継続して減少傾向にある。65 歳以上の老年人口は平成 32 年の 16,332 人を増加のピークとして、以降平成 52 年までに 13,104 人に減少すると推計されている。
- ・海岸沿いの平野部と谷筋沿いに市街地、集落が形成され、「山」の字のような居住分布となっている。これにより、主要道路は「山」の字の形に整備されている。

### (2) 市内公共交通網

#### ① 鉄道

- ・鉄道利用者は、長期的に減少傾向にある。
- ・駅舎とプラットホームの間に階段が多いものが多く、バリアフリーに関する整備が不十分である。

#### ② 路線バス

- ・路線バスは、各谷あいの奥にある温泉やスキー場等の観光施設と市街地や糸魚川駅等主要駅をつないでいる。そのため各路線は片道運行距離が 20km を超えるような長大路線となっている。
- ・えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン、J R 大糸線と競合する路線が多い。

#### ③ コミュニティバス・乗合タクシー

- ・コミュニティバス・乗合タクシーは、主にそれぞれの地区内を運行している。
- ・利用者数は、地域によって大きく異なる。

#### ④ 公共交通（市が無償で人の輸送を行うもの）

- ・小学校や中学校の遠距離通学において、一部の地区では、スクールバスが運行している。
- ・青海地域で運行している医療受診者送迎車、能生地域で運行しているふれあい送迎バスは、それぞれ年間利用者数が約 1,200 人程度である。
- ・公共交通と路線バスが併走している区間が多いため、詳細な分析が必要である。
- ・高速バスは、北陸新幹線やえちごトキめき鉄道の開業に伴う新潟市方面への特急廃止や県内高速バス他路線の減便等により、平成 27 年度は糸魚川～新潟線の利用者が増加している。

### (3) 新幹線の状況

- ・調査期間中の新幹線利用者は、平日よりも休日の方が多い。
- ・同時期の利用者数を比較すると、平成 27 年 7 月の利用者よりも平成 28 年 7 月の新幹線利用者数が減少している。

#### (4) 運行にかかる補助金

---

- ・生活交通としての路線バス、コミュニティバス及び乗合タクシーの確保対策にかかる運行費補助金は年々増加傾向にあり、平成27年度は総計1億4千万円程度である。

#### (5) 公共交通利用促進事業

---

- ・小中学生向けに路線バス乗り放題の割引定期券「こどもフリーパス」の購入費用の一部を補助している。遠距離通学児童・生徒に対しては、通学支援として路線バス等の通学定期券を支給している。
- ・一定の条件を満たす高齢者、障がい者に向けて路線バス乗り放題の割引定期券の購入費用の一部を補助、タクシー運賃の助成、タクシー券の交付を行う「高齢者・障害者おでかけバス事業」「高齢者おでかけ支援タクシー券交付事業」「障害者交通費助成事業」を実施している。
- ・その他、バス教室の開催や期日限定のワンコインバスの運行を行っている。
- ・路線バス啓発・利用促進資料「みんなでバスにのるまいか～」の配布、公共交通を知ってもらうために市職員とバス事業者が地域に出張し対話する路線バス出張サロン「よるまいか～」等を実施している。

#### (6) 既存アンケート

---

- ・75歳以上の高齢者の方へ「外出について」ヒアリングを行った結果では、「車やバスで外出している」方が回答者の9割を占める。最も多い外出手段は「路線バス」25.8%、次いで「自分が運転する車」23.1%である。
- ・路線バスを利用しない理由として最も多いものは「路線バス以外に便利な交通手段がある」60.9%である。次いで「バスの段差がきつくて乗り降りできない」が10.1%である。
- ・「利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか」は「利用しない」が約8割を占めた。

#### (7) 観光入込客数

---

- ・観光客数は平成27年3月の北陸新幹線開業に伴い増加している。一方、宿泊客数は平成26年よりも減少している。